

令和4年度
事業報告書



Mission statement

日本赤十字社の使命

わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する
7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、
苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、
いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、
赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、
すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、
互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1 災害救護体制の充実・強化・・・・・・・・	2
2 健康・安全のための知識・技術の普及・・・・・・・・	10
3 青少年赤十字活動・・・・・・・・	13
4 国際活動・・・・・・・・	20
5 赤十字奉仕団による活動・・・・・・・・	22
6 赤十字思想の普及・・・・・・・・	27
7 赤十字活動資金の確保・・・・・・・・	32
8 医療事業・・・・・・・・	35
9 看護師の養成・・・・・・・・	41
10 血液事業・・・・・・・・	42
11 評議員会及び監査・・・・・・・・	47
[巻末]	
決算資料・・・・・・・・	49～57
資 料 編・・・・・・・・	58～69

はじめに

平素から、日本赤十字社山口県支部・施設の活動に、格別のご支援とご協力をいただいております。厚くお礼申し上げます。

日本赤十字社は創立以来 140 年以上にわたり、世界 192 の国と地域に展開する国際赤十字の一員として、多岐にわたる人道的課題の解決に取り組んでまいりました。

令和 4 年度は全国各地で大雨による河川の氾濫や土砂災害が多発し、日本赤十字社は救護班による医療巡回診療をはじめとする救護活動を展開いたしました。世界各地で気候変動に伴う自然災害が頻発化・激甚化している中、将来的な災害に備え、機動的な災害救助体制の整備と防災・減災教育の充実・強化を進めています。

国外に目を転じると、ウクライナでは、今なお厳しい戦闘状態にある現地において、国際赤十字が一丸となり、全力を挙げて支援を続けています。そのさなかの今年 2 月、トルコ・シリアの国境付近で地震が発生し、国際社会は再び未曾有の人道危機に直面することとなりました。日本赤十字社は、お寄せいただいた救援金をもって、国際赤十字への資金拠出だけでなく、医療チームをはじめとする独自の人的貢献も展開しているところです。

こうした有事における全社的な取組に加え、山口県支部・施設におきましては、令和 4 年度も、職員、奉仕団員等赤十字関係者が一体となって、人間のいのちと健康、尊厳を守るための赤十字の事業・活動に取り組んでまいりました。

まず、支部事業については、災害救護体制の充実・強化をはじめ、救急法等の講習普及、青少年赤十字や奉仕団活動など、コロナ禍においても感染防止対策を講じながら各種事業の推進に努めました。

これらの人道支援活動の財源となる「活動資金」についても、地区・分区や奉仕団等関係者の皆様のご協力により、多くの個人・法人の皆様からご支援いただき、目標額を達成することができました。

また、国内外の被災者のため、多くの義援金・救援金が寄せられたことに、心より感謝申し上げます。

次に、医療事業については、新型コロナウイルス感染症への対応に全力で取り組むとともに、医療機能の分化・連携、地域包括ケアシステムの構築など、医療・介護の制度改革に適切に対応しつつ、県民ニーズに応じた医療提供体制の充実・強化に努めました。

また、血液事業については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたものの、ほぼ前年並みの献血者を確保し、中四国地域での広域需要管理体制の下、血液製剤を安定的に供給することができました。

詳細については、当報告書にまとめましたので、ご高覧ください。お気づきの点など、ご意見をいただければ幸いです。

「救いたい」その思いを託されている私たちは、今後とも、赤十字ならではの人道支援を未来に向かって継続し、県民の皆様の信頼と期待に応えていきたいと考えていますので、一層のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

日本赤十字社山口県支部

1 災害救護体制の充実・強化

日本赤十字社が取り組む災害救護は、自らが達成すべき人道的任務です。

山口県支部では、頻発化・激甚化・広域化する災害に備え、常備救護班等や災害医療コーディネートチームを編成し、訓練や研修を行うとともに、必要な資器材の整備・更新を行うなど、災害救護体制の維持・強化を図りました。

(1) 令和4年台風14号の対応

9月18日に九州に上陸し、その後19日の昼間にかけて山口県を横断した台風14号の影響により、山口県でも大雨が降り、東部地域では総雨量が300ミリを超えた地域が発生し、岩国市で河川の増水による住宅浸水被害をもたらしました。

山口県支部では、地区・分区による避難者への救援物資の配布を行うとともに、山口県社会福祉協議会からの防災ボランティア支援要請により、県赤十字防災奉仕団員等を岩国市の被害地域に派遣し、浸水した住宅の家財の撤去などの活動を行いました。

①救援物資の配付

	下関市地区	長門市地区	美祢市地区	山陽小野田市地区
毛 布	40 枚	6 枚	38 枚	80 枚
安眠セット	—	—	33 セット	—

②防災ボランティア活動

派遣期間	派遣奉仕団
9月22日～23日	山口県赤十字防災奉仕団、岩国災害救護奉仕団 延べ7人

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応

県内の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、山口県からの要請によりDMAT隊員を派遣し、クラスター発生施設での対応や保健所の業務支援等を行いました。

対 応 期 間	派 遣 員
8月19日～22日	医師1名、看護師1名、業務調整員1名
12月22日	看護師1名
12月29日～2月6日	医師1名、看護師3名、業務調整員2名

(3) 救護班の編成、救護要員の養成・訓練・研修の実施

①救護班と救護要員の登録・養成

災害発生後、直ちに医療救護活動ができるよう、山口及び小野田両赤十字病院の医師や看護師等を救護要員として登録し、常備救護班 8 個班を編成しました。

【施設別救護班編成状況および救護要員の職種別登録者数（令和 4 年 6 月 1 日現在）】（単位：人）

区分 施設	常備救護班 編成数	本部災害対策 要員	救護班要員					血液供給要員	本部支部災害対策 支援要員	合計
			医師	看護師長	看護師	主事	薬剤師			
支 部	—	9	—	—	—	—	—	—	—	9
山口赤十字病院	6 個班	6	12	12	22	24	2	—	6	84
小野田赤十字病院	2 個班	3	2	4	8	15	2	—	—	34
血液センター	—	7	—	—	—	16	—	9	4	36
合 計	8 個班	25	14	16	30	55	4	9	10	163

【救護班 1 個班の編成基準 ※第 1 班には、薬剤師 1 名を加えて 7 名で編成します。】（単位：人）

医師（班長）	看護師長	看護師	主事（事務）	計
1	1	2	2	6

②日赤災害医療コーディネートチームの編成

大規模災害時の医療ニーズの把握や本社・支部の災害対策本部に対する助言、被災地自治体保健医療調整本部との連携・調整を図るための災害医療コーディネートチームを 3 チーム編成しました。

施設名	コーディネーター （医師）	コーディネート スタッフ （看護師、薬剤師、 事務職員）	チーム数
山口赤十字病院	3 名	6 名	2 チーム
小野田赤十字病院	1 名	3 名	1 チーム

③DMAT（災害派遣医療チーム）の編成

災害急性期（概ね発災後 48 時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームを山口赤十字病院に 2 チーム編成しており、県内外で発生する大規模災害に備えました。

施設名	チーム数	医 師	看護師	業務調整員	合 計
山口赤十字病院	2 チーム	2 名	6 名	4 名	12 名

④救護要員の訓練・研修

赤十字の使命である災害救護活動を迅速かつ的確に実施するため、救護訓練への参加や救護要員のための研修会を通じて救護知識の習得と技術の向上を図りました。

【災害救護訓練】

訓 練 名	開催月日	主 催	会 場	参加者数
山口県総合防災訓練	5 月 29 日	訓練実行委員会	周防大島町 しまとびあスカイセンター	4 名
救護員としての赤十字 看護師研修総合演習	11 月 22 日	日本赤十字社 山口県支部	日本赤十字社 山口県支部	18 名
中国・四国ブロック日赤災害医療 コーディネートチーム連絡会議	11 月 5 日 ～6 日	日本赤十字社 広島県支部	日本赤十字社 広島県支部ほか	3 名
山口県支部災害救護訓練	3 月 11 日	日本赤十字社 山口県支部	日本赤十字社 山口県支部	36 名

【災害救護研修】

研 修 名	開催月日	主 催	会場及び開催形式	参加者数
支部災対本部 立ち上げ・運営研修	6 月 29 日	日本赤十字社 山口県支部	日本赤十字社 山口県支部	12 名
救護員としての 赤十字看護師研修	2 月～11 月	山口・小野田 赤十字病院	日本赤十字社 山口県支部	18 名
こころのケア要員 養成研修会	8 月 6 日 1 月 28 日	日本赤十字社 山口県支部	オンライン開催	34 名
こころのケア指導者 養成研修会	11 月 16 日～ 17 日	日本赤十字社	日本赤十字社 本社	1 名
日赤災害医療コーディネート 研修会	1 月 21 日～ 22 日	日本赤十字社	日本赤十字社 本社	1 名
中国・四国ブロック 災害対策本部要員研修会	2 月 21 日～ 22 日	日本赤十字社 徳島県支部	中止	—

(4) 救護装備の整備

①災害救護装備の更新及び整備

災害時等に迅速・的確に対応するために、毎年必要な救護装備の更新及び整備を行っています。令和4年度は、災害救援車1台の更新と災害救護活動時に電力を供給する蓄電池2台を整備し、即応体制を整えました。

【保有救護用資・器材】

品 目	支 部	病 院	血液センター	合 計
医療セット	2 セット	2 セット		4 セット
パイプテント	8 張			8 張
ドラッシュテント	2 張			2 張
エアテント	1 張	1 張		2 張
担架	20 台	3 台		23 台
折畳寝台	33 台	9 台		42 台
発電機	2 台			2 台
蓄電池	4 台			4 台
投光器	1 台			1 台
折畳テーブル	4 台			4 台
折畳ホワイトボード	2 台			2 台
個人線量計	28 個			28 個
サーバイメーター	1 個			1 個
NBC 除染セット	1 セット			1 セット
衛星電話	5 台	2 台	2 台	9 台
無線（150MHz）	18 台	6 台	5 台	29 台
無線（400MHz）	12 台	4 台		16 台

【保有救護用車両】

車 両 種 別	支 部	山口赤十字病院	小野田赤十字病院	合 計
救急車	1 台	1 台	1 台	3 台
災害救援車	7 台	1 台		8 台
合計	8 台	2 台	1 台	11 台

②AEDの整備

地区・分区の要請に応じ公共施設等へAEDを設置しています。令和4年度は新規1台、更新2台の整備を行いました。

【AEDの整備台数】(単位：台)

年度	H19～25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	合計
新 規	114	11	6	7	7	1	0	0	0	1	147
更 新	-	27	22	18	14	12	2	13	27	2	137

(5) 救援物資の備蓄

赤十字では、災害の発生に備えて救援物資を備蓄しており、令和4年度も被災者へ速やかに配布できるよう、地区・分区に必要数を分置しました。

【備蓄数】

	毛 布	緊急セット	安眠セット	バスタオル	タオルケット
地 区 分 区	4,142 枚	589 セット	489 セット	1,552 枚	0 枚
小野田赤十字病院	390 枚	738 セット	36 セット	0 枚	500 枚
山 口 県 支 部	480 枚	378 セット	48 セット	500 枚	800 枚
合 計	5,012 枚	1,705 セット	573 セット	2,052 枚	1,300 枚



毛布



緊急セット



安眠セット



バスタオル

(6) 臨時救護

公式な式典、大会等に際して、参加される多くの人々の万が一に備えるために、令和4年度も救護員を派遣しました。

【実施内訳】

主催者等	回数 のべ日	主な行事名	主な派遣場所	のべ 派遣数
山口県	1回/3日	山口県南方地域戦没者 「防長英霊の塔」慰霊祭	沖縄県	1名
山陽小野田市	8回/8日	やけの美タフェスタ ほか	山陽小野田市	8名
独立行政法人高齢・障害・ 求職者雇用支援機構	1回/1日	アビリンピックやまぐち	山口市	1名
公益財団法人 山口県体育協会	2回/3日	やまぐち未来 アスリートチャレンジ	山口市 下関市	3名
一般財団法人山口 陸上競技協会	1回/1日	第51回全日本実業団ハーフ マラソン大会	山口市	1名
	1回/1日	山口県読売駅伝 2023		2名
山口青年会議所	1回/1日	青空天国いこいの広場	山口市	2名
山口県障害者スポーツ大 会運営委員会	1回/1日	全国障害者スポーツ大会 派遣選手選考委員会	山口市	3名
山口商工会議所	1回/2日	山口七夕ちょうちんまつり	山口市	2名
NHK山口放送局	1回/2日	学校音楽コンクール	山口市	2名
公益財団法人 山口県消防協会	1回/1日	山口県消防操法大会	山口市	1名
日赤山口県支部	2回/3日	青少年赤十字リーダーシップ・ トレーニング・センター	山口市	2名

(7) 災害被災者支援

県内で災害等の被害にあわれた方々に対して、毛布・緊急セット等の救援物資を配布しました。また、災害により死亡された方のご遺族に対して弔慰金を交付しました。

【配布数】

	毛 布	緊急セット	安眠セット	バスタオル
配 布 数	192 枚	18 セット	48 セット	28 枚

【死亡者弔慰金】

件 数	交 付 金 額
11 件	260,000 円

(8) 義援金の募集

災害時には、必要に応じて義援金を募集し、被災者の支援に努めました。

義 援 金 区 分	件 数	金 額
平成 30 年 7 月豪雨災害義援金	16 件	168,968 円
令和 2 年 7 月豪雨災害義援金	33 件	240,150 円
令和 4 年 3 月福島県沖地震災害義援金	17 件	510,179 円
令和 4 年 7 月大雨災害義援金	14 件	280,749 円
令和 4 年 8 月 3 日からの大雨災害義援金	49 件	552,530 円
令和 4 年 8 月 3 日からの大雨災害義援金(青森県)	1 件	3,000 円
令和 4 年 8 月 3 日からの大雨災害義援金(山形県)	1 件	14 円
令和 4 年 8 月 3 日からの大雨災害義援金(新潟県)	1 件	2,411 円
令和 4 年 8 月 3 日からの大雨災害義援金(福井県)	1 件	9,020 円
合 計	133 件	1,767,021 円

【令和 5 年 3 月末までの総合計】

義 援 金 区 分	件 数	金 額
平成 30 年 7 月豪雨災害義援金	494 件	70,580,340 円
令和 2 年 7 月豪雨災害義援金（県指定含む）	252 件	18,827,936 円
令和 4 年 3 月福島県沖地震災害義援金	18 件	525,832 円

(9) 防災・減災の普及・啓発

日頃から防災・減災の取り組みを進め、地域の防災に関する知識・意識の向上と自助・共助の力を高めていくことを目的として、広く県民を対象とした防災・減災の知識・技術の普及を継続して行いました。

①地域・教育現場・企業における防災講習・セミナー

感染症拡大防止に配慮して、自治会・町内会等地域防災の取り組みの場、学校等の防災教育現場や企業における職域研修等での要請に対し、災害の備えを進めるための防災知識・役立つ技術を内容とする講習、地域住民の防災意識の向上を目的とするセミナーなどを行いました。

また、防災の専門家や教育現場の指導者と連携して進める赤十字防災教育プログラムや防災ワークショップもボランティアの協力を得ながら推進しました。

【防災講習の実施状況】

受講団体等	実施日	受講者数	講習内容
山口県立豊浦高等学校 (青少年赤十字加盟校)	5月17日	6人	災害への備えについて(講義)
美祢市立厚保小・中学校 (青少年赤十字加盟校)	5月30日	70人	災害により起こりうる怪我の手当て (実技)
山口市白石地域自治会・ 連合会役員	6月17日	40人	災害への備えについて(講義)
岩国市周東町赤十字奉仕 団、同地区民生児童委員、 同地区社協ボランティア	7月14日	100人	災害への備えについて(講義)
明星幼稚園 (青少年赤十字加盟園)	9月5日	20人	園児向け防災教材「きけんはっけ ん」(グループワーク)
山口市大歳地区母子保健 推進協議会	9月14日	15人	乳幼児を持つ保護者が心がける災害 への備えについて(講義)
下松市立下松小学校 (青少年赤十字加盟校)	11月9日	123人	大雨防災ワークショップ(グループワ ーク)
防府市柳地区自治会	11月13日	11人	災害発生 of 追体験(グループワーク)
平生町佐賀コミュニティ 協議会	11月15日	20人	非常食の炊き出し(実技)
上関町婦人会会員	11月17日	30人	災害発生 of 追体験(グループワーク)
山口県立熊毛北高等学校	12月9日	25人	大雨防災ワークショップ(グループワ ーク)
山口県立山口中央高等学 校(青少年赤十字加盟校)	1月13日	360人	災害時の自分の行動について考える (グループワーク)
光地区防災協会委員	2月22日	80人	災害への備えについて(講義)
宇部看護専門学校	2月24日	23人	災害発生 of 追体験(グループワーク)
合 計		923人	

②防災ボランティアのフォローアップ研修

平時には、防災・減災意識の啓発、災害時には日赤山口県支部が実施する救護活動
を支援いただく防災ボランティアである防災奉仕団員の知識・技術の向上を目的とし
た研修会を実施しました。

研 修 名	実施時期	会 場	参加者数
第 1 回山口県赤十字防災奉 仕団フォローアップ研修会	7月22日	日本赤十字社山口県支部	21名
第 2 回山口県赤十字防災奉 仕団フォローアップ研修会	9月24日 10月2日	日本赤十字社山口県支部	25名

2 健康・安全のための知識・技術の普及

日本赤十字社では、「人間の苦痛を予防・軽減し、生命の尊厳を確保する」という赤十字の理念を、具体的な知識や技術として一般の人々に広めることを目的として、延べ受講者9,000人を目標に『いのちを守る赤十字講習会』を開催しました。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を見送っていた、一般の方を対象とした救急法救急員や指導員等の養成講習会を再開するとともに、受講者の分散を目的に救急法基礎講習を夜間の時間帯に開催しました。

《講習の種類と内容》

講習名	講習内容
救急法	基礎講習…心肺蘇生、AEDの使い方、気道異物除去 等 救急員養成講習…急病・けがの手当（止血・包帯・固定）、搬送 等
水上安全法	泳ぎの基本と自己保全、事故者の救助および応急手当、海・河川・湖沼での事故防止等
健康生活支援講習	誰もが迎える高齢期を、健やかに生きるために必要な健康増進の知識や、高齢者の支援・自立に役立つ介護技術等
幼児安全法	こどもに起こりやすい事故の予防と手当、こどもの病気と看病、こどもに対する心肺蘇生及びAEDの使い方等
家庭あんま術	病気の予防や疲労回復などの健康増進を目的とした、家庭のできるあんま術の知識と技術



救急法養成講習



水上安全法救助員養成講習



健康生活支援員養成講習



幼児安全法支援員養成講習

(1) 各種講習の実施

区 分	実施時期	実施回数	受講者数
救急法基礎講習	通年	12 回	230 人
救急法救急員養成講習会	通年	10 回	113 人
救急法基礎（夜間）講習	11 月	1 回	8 人
救急法短期間講習	通 年	305 回	9,927 人
水上安全法短期間講習	7 月、8 月	2 回	60 人
健康生活支援員養成講習	6 月、7 月、12 月	3 回	35 人
幼児安全法短期間講習	通 年	15 回	262 人
家庭あんま術講習	通 年	0 回	0 人
合 計		348 回	10,635 人

(2) 講習普及指導員の育成

各講習を普及推進していくために指導員に対して研修等を実施して育成を行っており、令和 4 年度は救急法指導員養成講習及び健康生活支援講習指導員養成講習を実施しました。

【講習別指導員内訳】

区 分	人 数	令和 4 年度養成者数
救急法指導員	170 名	5 名
水上安全法指導員Ⅰ	5 名	—
水上安全法指導員Ⅱ	21 名	—
健康生活支援講習指導員	41 名	9 名
幼児安全法指導員	72 名	—

【講習指導員の育成】

研修名	地区名	開催日	会場	参加者
山口県赤十字安全奉仕団 地区研修会	岩国	5 月 21 日	岩国市市役所	13 名
	周南	5 月 22 日	あいぱ一く光	13 名
	山口	5 月 28 日	日本赤十字社山口県支部	18 名
	西部	6 月 5 日	宇部市総合福祉会館	16 名

【救急法指導員養成講習会】

プログラム	日 程	養成者
事前説明会・研修会	12 月 17 日	5 名
養成講習	1 月 13 日、14 日、 2 月 3 日、4 日、10 日	
新任指導員研修会	3 月 3 日	

【健康生活支援講習指導員養成講習会】

プログラム	日 程	養成者
事前説明会・研修会	3 月 9 日	9 人
養成講習	3 月 11 日、16 日、18 日、25 日	
新任指導員研修会	4 月 8 日	

(3) 講師の養成

指導体制の充実を図るため、救急法と幼児安全法の講師を各 1 名養成しました。

【講師在籍状況】（単位：人）

講 習 種 別	養成者数	在籍数
救急法	1	5
健康生活支援講習	—	1
幼児安全法	1	2

3 青少年赤十字活動

赤十字精神に基づいて世界の平和と人類の福祉に貢献できる青少年を育成するため、学校教育の中で青少年赤十字活動が行われています。学校においてこの活動が活発に行われるよう加盟園・校の拡大を進めるとともに、指導体制の充実や青少年赤十字メンバーの資質の向上に努めました。

(1) 加盟園・校の拡大と活動の充実

各市町での教員の集まる機会などに職員や賛助奉仕団員が訪問し、加盟促進を図りました。

① 加盟の状況

区分	令和3年度	令和4年度	増減	(参考) 令和4年度 JRC加盟率
幼稚園	15 園	17 園	+2 園	
保育園	2 園	2 園	—	
小学校	86 校	96 校	+10 校	35%
中学校	31 校	33 校	+2 校	23.3%
高等学校	37 校	37 校	—	52%
総合支援学校	1 校	1 校	—	8.3%
全 体	172 園・校	186 園・校	+14 校	33.6%

※加盟率は、山口県内の学校数（令和4年度山口県教職員録より）を分母として算出

②活動助成

県下の加盟園・校が青少年赤十字の実践目標「健康・安全、奉仕、国際理解・親善」及び態度目標「気づき、考え、実行する」に基づく学校単位で行う地域活動・研修等に対して、開催経費の一部助成を行いました。

【令和4年度の助成状況】

活 動 内 容	助成件数
宿泊活動	31 件
清掃活動	10 件
野外体験学習	5 件
緑化活動	3 件
地域交流学習	2 件
防災学習	1 件
計	52 件

③活動奨励金の交付（100 周年記念事業）

他校の模範となるような活動に取り組む小学校 2 校、高校 2 校に対し、活動奨励金を交付しました。活動の成果は令和 5 年 1 月 27 日に開催の指導者研修会で発表いただき、事例を共有しました。

【実施内容】

奨励金活用校	取り組み内容
山口県立下関南高等学校 	【年間を通じた JRC 活動の実施】 貸切バスをチャーターした県内ごみ拾い遠征、60 年前に校内へ植樹した JRC シンボルツリーからの種の採取・発芽、地元のマラソン大会の運営、他の部活動との協働など、生徒らの気づきや考えから発案した活動をした。
山口県立華陵高等学校 	【全校生徒で取り組む JRC 活動】 地域清掃、少数民族の方への義援金募集、防災意識の啓もう活動など、全生徒が活動の意味や目的を理解し取り組んだ。
山口市立湯田小学校 	【年間を通じた JRC 活動】 児童・生徒に JRC への意識付けを行い、地域清掃・環境保全、高齢者との交流、防災に取り組んだ。
下松市立下松小学校 	【地域で守る命 防災・減災活動】 児童・生徒に JRC への意識付けを行い、地域の防災関係機関と連携した防災体験学習に取り組んだ。

(2) 指導体制の充実

県教育委員会や加盟園・校の指導者で組織する指導者協議会の支援を得て、今後の活動充実と活性化を図るための会議・研修を行いました。また、日赤本社や他県が主催する協議会・研究会に指導者を派遣しました。

会議・研修名	実施時期	会 場	参加者数
山口県青少年赤十字高等学校指導者協議会 校長会	6 月 9 日	ホテルニュータナカ	34 名
山口県青少年赤十字幼保・小・中学校指導者協議会 園長・校長会	6 月 3 日	カリエンテ山口	85 名
青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	6 月 29 日	(WEB 開催)	2 名
青少年赤十字指導者研修会	7 月 2 日	広島県支部	3 名
青少年赤十字研究会	10 月 28 日	一本松小学校 (愛媛)	1 名
青少年赤十字研究会	11 月 1 日	守山小学校 (滋賀)	1 名
中国・四国ブロック青少年赤十字指導者協議会長並びに事務担当者会議	11 月 10 日 ～11 日	島根県松江市	3 名
山口県青少年赤十字研修会	1 月 27 日	(WEB 開催)	121 名

(3) 青少年赤十字メンバーの資質の向上

①リーダーシップ・トレーニング・センターの実施

令和 4 年度は、山口県支部主催のリーダーシップ・トレーニング・センターを小学校は 3 年ぶりの宿泊、中・高等学校は参集及び WEB で開催しました。

また、例年、県を 4 地区に分け、その地区ごとに企画される高等学校メンバーの地区トレーニング・センターを実施していますが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止、又は書面や WEB による開催となりました。

研 修 名	実施時期	会 場	参加者数
高等学校中部地区リーダーシップ・トレーニング・センター	中止		
高等学校東部地区リーダーシップ・トレーニング・センター	中止		
高等学校南部地区リーダーシップ・トレーニング・センター	中止		
高等学校西部地区リーダーシップ・トレーニング・センター	11 月 13 日	県立長府高等学校	メンバー 40 人 指導者 6 人
高等学校リーダーシップ・トレーニング・センター	8 月 8 日	WEB	メンバー 38 人 指導者 11 人
	8 月 10 日	KDDI 維新ホール	
中学校リーダーシップ・トレーニング・センター	8 月 10 日	WEB	メンバー 22 人 指導者 12 人
	8 月 11 日	県セミナーパーク	
小学校リーダーシップ・トレーニング・センター	8 月 3 日～ 4 日	下関ユースホステル	メンバー 18 人 指導者 10 人
スタディー・プログラム	3 月 21 日	WEB	メンバー 2 人 指導者 1 人
	3 月 25 日	本社	



小学校トレセン



中学校トレセン



高校トレセン

②加盟園・校メンバーの活動

県下各園・校において、募金活動、清掃活動、野外活動など、新型コロナウイルスの感染防止対策を講じて様々な活動が行われました。

更に、高等学校では、県下加盟校全体で組織する協議会を中心に活動の企画・協議が行われ、今年度は「今の私たちだからできることを考え実行しよう」を全体テーマとし、それぞれの学校で活動を行いました。

【高等学校メンバーの活動】

活動内容	実施時期	会 場	対象・人数
世界赤十字デー県下一斉 ボランティア・サービス (清掃、環境美化、福祉施設 訪問活動等)	通年	県下加盟高校校区等	高校生徒 ・指導者 22校 597名
山口県高等学校 青少年赤十字学習交流会	8月18日	カリエンテ山口	高校生徒 ・指導者 6校 32名
山口県高等学校 青少年赤十字協議会総会	9月10日	(WEB開催)	高校生徒 ・指導者 19校 31名
高校協議会新役員研修会	9月23日	KDDI 維新ホール	高校生徒 ・指導者 5校 9名

③赤十字講習・プログラム活用の推進

未来を担う子どもたちに、防災講習や健康・安全のための講習会、専門職員や青少年赤十字賛助奉仕団員による出前授業を行いました。

【講習会】(再掲※)

講 習 内 容	回 数	人数 (対象：児童・生徒、保護者、教職員等)
救急法	84回	2,501人
防災講習	5回	579人

※P8.(9)「防災・減災の普及・啓発」、P11.(1)「各種講習の実施」の再掲(JRC加盟校分)

【出前授業】

講習内容	回 数	人 数 (対象：生徒)
いのちの尊さについて	2 回	143 人
JRC セミナー	3 回	246 人
車椅子講習	1 回	109 人
高齢者疑似体験	1 回	109 人
東日本大震災講和	2 回	444 人

④高校生オンラインセミナー

令和 4 年度からの新たな取り組みとして、高等学校における JRC 活動の活性化を目的に、赤十字事業の理解促進や社会課題を考えるセミナーをオンラインで実施し、多くの高校生メンバーが受講しました。

【高校生オンラインセミナー】

講習内容	回 数	人 数 (対象：生徒)
新メンバー研修	1 回	133 人
国際人道法、ウクライナ人道危機	2 回	113 人
気候変動	2 回	137 人
赤十字と JRC について	1 回	62 人
血液について	1 回	29 人
国際理解・親善	1 回	53 人
性の多様性	1 回	78 人

(4) 新型コロナウイルスの感染予防と感染拡大防止の啓発

新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識を身につけ、感染予防と感染拡大防止、さらには、差別や偏見を防ぐことを目的に、令和 2 年度から青少年赤十字向け教材を活用した啓発活動を行っています。令和 4 年度は、小・中・高校 3 校に青少年赤十字賛助奉仕団員や職員を派遣し、講演を行いました。

【実施校】

学校名	実施時期	人 数 (対象：生徒)
山口県立下関南高等学校	11 月 1 日	305 人
下松市立末武中学校	11 月 8 日	900 人
防府市立向島小学校	2 月 10 日	40 人

(5) 国際交流事業

①国際交流集会 JRC/RCY International Meeting

国際理解・親善を实践する活動の一つとして、隔年で本社が主催する国際交流集会に、高校生代表メンバーがオンラインで参加しました。

日本及び 27 の国と地域から第一部・二部を通じて延べ 694 名が参加し、「気候変動～未来と世界をまもる行動をともに～」をテーマに国際赤十字の活動や海外支社での取り組みを聞き、相互に意見交換をしました。

また期間中の特別プログラムに、当県のメンバーが全国の代表として参加し、フィジー赤十字社のメンバーと文化交流を行いました。

JRC/RCY International Youth Exchange Programme 2022 on the Web

実施時期	参加者
10 月 2 日	高川学園 JRC メンバー 2 名
11 月 5 日・6 日	聖光高校 JRC メンバー 2 名



②青少年赤十字海外支援事業（1 円玉募金）

ネパールとバヌアツの衛生教育や防災教育などを中心に支援するため、「小学生メンバーたちが自分たちのお小遣いの中から出せる金額での奉仕」として、青少年赤十字海外支援事業（1 円玉募金）を実施しました。

件数	金 額
2 件	39,515 円

(6) 東日本大震災オンライン語り部 LIVE2022

日赤宮城県支部の主催で、全国の JRC 加盟校を対象とした、「東日本大震災オンライン語り部 LIVE2022」に、当支部から 4 校が参加し、過去の災害を知ることによって課題に「気づき」、未来の災害への対応について「考え」、そのための備えとして何を「実行する」べきか学びました。

【語り部 LIVE 参加校】

参加校	配信日	人数
山口県立徳山商工高等学校	① 1 月 27 日、② 2 月 15 日、 ③ 3 月 2 日	① 17 人、 ② 5 人、③ 2 人
防府市立中関小学校	1 月 17 日	133 人
山口県立華陵高等学校	2 月 15 日	3 人
平生町立佐賀小学校	2 月 21 日	10 人
	合 計	170 人



4 国際活動

日本赤十字社は、国際赤十字の有力な一員として、地域紛争や自然災害による犠牲者の救援や、発展途上国の保健衛生指導や災害対策を目的に、医療要員や職員の派遣、医薬品や食料等の救援物資を送るなど、さまざまな救援活動を行っています。

令和4年度は、発展途上国における保健衛生事業への援助、地域紛争や被災国を支援するための救援金募集等を行いました。

(1) 発展途上国開発援助（アジア・大洋州「給水・衛生」キット支援事業）

中国・四国各県支部との共同事業として、洪水やサイクロンなどの災害に対し、現地で給水・衛生活動が展開できるよう資金援助を行いました。

【助成金額】

令和3年度	令和4年度	前年対比
853,353 円	901,980 円	105.6%

(2) 海外救援金の募集

①NHK海外たすけあい

1983年から日本赤十字社とNHKが共同で実施している募金キャンペーンで、海外の紛争や災害等で苦しんでいる人々を支援するために、令和4年度も12月1日から25日の間、募金の受付を行いました。

【受付件数および受付金額】

			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
総 額	件数		1,618 件	1,494 件	1,568 件	2,498 件
	金額		6,312,885 円	7,889,031 円	8,828,844 円	11,402,566 円
内 訳	募金箱	件数	999 件	970 件	927 件	921 件
	街頭募金等	金額	928,437 円	924,167 円	1,050,735 円	1,113,774 円
	ダイレクト	件数	619 件	524 件	641 件	1,577 件
	メール	金額	5,384,448 円	6,964,864 円	7,778,109 円	10,288,792 円

②青少年赤十字海外支援事業（1円玉募金） 再掲※

ネパールとバヌアツの衛生教育や防災教育などを中心に支援するため、青少年赤十字加盟園・校へ「1円玉募金」の実施を呼びかけました。

件数	金 額
2 件	39,515 円

※P18.(5)「国際交流事業②」の再掲

③その他の救援金

世界各国の赤十字社・赤新月社を通じて被災国の赤十字社に寄せられる「海外救援金」は、国際赤十字機関や被災国の赤十字社が行う被災者支援活動に役立てられます。

令和4年度も国際赤十字機関や被災国赤十字社からの依頼に基づいた救援金を募集しました。

救 援 金 区 分	件数	金 額
2023 年トルコ・シリア地震救援金	82 件	15,295,122 円
ウクライナ人道危機救援金	286 件	39,048,214 円
バングラデシュ南部避難民救援金	6 件	16,591 円
アフガニスタン人道危機救援金	9 件	57,896 円
中東人道危機救援金	2 件	2,446 円
2022 年パキスタン洪水救援金	3 件	15,877 円
2022 年アフガニスタン地震救援金	10 件	6,801 円
無指定海外救援金	5 件	26,063 円
合 計	403 件	54,469,010 円

5 赤十字奉仕団による活動

赤十字奉仕団は、赤十字の理念である人道的な諸活動を実践するため、地域や活動の分野ごとに結成されたボランティア組織であり、その活動は、赤十字運動の普及にかかせないものです。

当支部では、奉仕団相互の連携強化を図るとともに、活動の中心となるボランティアリーダーを育成し、活動の充実に向けた体制強化を図りました。

また、各奉仕団がそれぞれ円滑な活動を展開できるよう、団員の知識・技術の向上や情報交換、連絡調整を図るための会議や各種研修会等を開催しました。

【山口県の奉仕団結成状況】

奉仕団の種類		団数	団員(登録者)数	特 色
地域奉仕団		41 団	7,464 名	主として、市町の婦人会組織等。一定の地域ごとに結成され、赤十字の思想普及、活動資金募集、災害時の救護活動支援等、地域に密着した活動を行っている。
青年（学生）奉仕団		3 団	67 名	青年や学生で組織され、献血推進や社会福祉施設の訪問等の活動を行っている。
特殊奉仕団	安全奉仕団	1 団	155 名	救急法・水上安全法・幼児安全法の指導員で結成され、県民の健康と安全を守るための講習会の指導を行っている。
	アマチュア無線奉仕団	1 団	90 名	アマチュア無線免許保有者で結成され、非常災害時において通信網を確保し、正確かつ迅速な情報の収集と伝達を行うことを目的に活動している。
	青少年赤十字賛助奉仕団	1 団	42 名	青少年赤十字活動の普及や加盟促進を目的に活動しており、青少年赤十字の指導経験者や、目標に賛同された方で組織されている。
	災害救護奉仕団	2 団	89 名	災害時に赤十字が実施する救護活動に協力することや、平時に防災思想の普及を図ることを目的に組織されている。
合 計		49 団	7,907 名	

(1) 赤十字奉仕団相互の連携強化

①赤十字奉仕団山口県支部委員会の開催

地域奉仕団、青年（学生）奉仕団、専門技能を持つ特殊奉仕団の委員長で構成される奉仕団支部委員会を3年ぶりに対面で開催し、情報交換や相互の連携強化に向けて意見交換を行いました。

名 称	実施時期	会 場	参加者
赤十字奉仕団山口県支部委員会	5 月 12 日	日本赤十字社 山口県支部	7 名

②赤十字奉仕団相互の連携

地域と密着した活動をしている地域奉仕団を中心に、青年（学生）奉仕団、専門技能を持つ特殊奉仕団が連携して赤十字事業を県内全域へ推進しました。

【奉仕団別の連携事業】

奉仕団名	地域奉仕団との連携事業
青年（学生）奉仕団	献血推進や社会福祉施設の訪問※
安全奉仕団	県内全域での救急法等講習会指導・受講促進※
アマチュア無線奉仕団	通信訓練及び県・市町防災訓練への参加※
災害救護奉仕団	県内全域での防災講習会指導・防災減災意識の向上

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を見送り

(2) ボランティアリーダーの育成

赤十字ボランティア活動の中心となるボランティアリーダーを育成し、活動の更なる充実・拡大を図りました。

○全奉仕団

会議名	実施時期	会場	参加者数
赤十字奉仕団支部指導講師研修会	1月28日～30日	本社	1名
赤十字ボランティアリーダー研修会（青年）	8月27日～28日	（WEB開催）	1名
赤十字ボランティアリーダー研修会（地域・特殊）	1月28日～30日	本社	1名

○防災奉仕団

研修名	実施時期	会場	参加者数
令和4年度防災ボランティアリーダー養成研修会	6月25日～26日	（WEB開催）	1名
防災教育事業主任指導者研修	11月8日	（ハイブリッド形式）	2名
防災教育事業支部指導者養成研修会	7月24日 9月24日 10月2日	日本赤十字社山口県支部	15名

(3) 会議・研修会等の開催

○全奉仕団

会 議 名	実施時期	会 場	参加者数
支部赤十字奉仕団担当者研修会	7 月 6 日	(WEB 開催)	支部職員 1 名
赤十字奉仕団中央委員会	5 月 30 日～ 31 日	ハイブリッド形式	1 名
赤十字奉仕団 中央委員会常任委員会	12 月 2 日	本社	1 名

○地域奉仕団

会 議 名	実施時期	会 場	参加者数
山口県赤十字奉仕団 委員長会議	(書面開催)		
中国・四国ブロック赤十字奉 仕団協議会	9 月 27 日	(WEB 開催)	委員長 1 名 支部職員 1 名

研 修 名	実施時期	会 場	参加者数
山口県赤十字奉仕団 中堅団員研修会	中部 10 月 5 日 東部 10 月 12 日 西部 10 月 19 日	中部：日赤山口県支部 東部：岩国市民文化会館 西部：サンワーク美祢	54 名
中国・四国ブロック 赤十字奉仕団研修会	12 月 1 日～2 日	日本赤十字社香川県支部	3 名

地域奉仕団では、主な活動として、5 月の赤十字運動月間に合わせ、毎年県下一斉ボランティアを実施していますが、令和 3 年度に引き続き、時期を限定せずに年間通して清掃活動や感染防止対策を講じた炊き出し訓練、地域ごとの研修会を行いました。

また、中堅団員研修会では炊き出し訓練を図上で行い、アレルギーに配慮したメニューと調理工程を考えるグループワークを行いました。

○青年（学生）奉仕団

会 議 名	実施時期	会 場	参加者数
中国・四国ブロック 青年赤十字奉仕団 連絡協議会	6 月 4 日～5 日	日本赤十字社 香川県支部	県青年奉仕団 委員長 1 名 支部職員 1 名
山口大学学生赤十字 奉仕団年末総会	12 月 16 日	山口大学共通 23 番教室	27 名（委任状 16 名）
山口大学学生赤十字 奉仕団新年総会	1 月 6 日	山口大学共通 24 番教室	33 名（委任状 26 名）

研 修 名	実施時期	会 場	参加者数
中国・四国ブロック 青年赤十字奉仕団研修会	11 月 19 日 ～20 日	日本赤十字社 岡山県支部	2 名
山口県青年（学生）赤十字奉仕 団基礎研修会	11 月 12 日	日本赤十字社 山口県支部	9 名
山口県青年（学生）赤十字奉仕団 リーダー研修会	1 月 15 日	日本赤十字社 山口県支部	4 名
赤十字 7 原則に関するセミナー	3 月 7 日～ 11 日	本社	1 名

例年実施している献血推進活動は、感染流行時期を除いて学内・街頭献血の呼びかけを月 1 回程度実施しましたが、高齢者施設への訪問等の活動については感染症拡大防止のため中止となりました。

○安全奉仕団

会 議 名	実施時期	会 場	参加者
山口県赤十字安全奉仕団 役員会	4 月 23 日	日本赤十字社 山口県支部	14 名
地区研修会（岩国会場）	5 月 21 日	岩国市役所	13 名
地区研修会（周南会場）	5 月 22 日	あいぱーく光	13 名
地区研修会（山口会場）	5 月 28 日	日本赤十字社 山口県支部	18 名
地区研修会（西部会場）	6 月 5 日	宇部市総合福祉会館	16 名
山口県赤十字安全奉仕団 役員会	3 月 25 日	日本赤十字社 山口県支部	9 名

各講習会における安全奉仕団員の指導協力回数

講習区分	講習回数（団員協力／全講習数）	協力団員（実人数）
救急法	222 回／328 回	64 名
幼児安全法	10 回／15 回	7 名

○アマチュア無線奉仕団

会 議 名	実施時期	会 場	参加者数
山口県赤十字アマチュア無線 奉仕団総会	（書面開催）		
山口県赤十字アマチュア無線 奉仕団役員会	3 月 4 日	日本赤十字社 山口県支部	10 名

研 修 名及びクラブ局運用	実施時期	会 場	参加者数
山口県赤十字アマチュア無線奉仕団地区活動 (宇部・山陽小野田地区)	11 月 5 日	アクトビレッジおの	8 名
山口県赤十字アマチュア無線奉仕団地区活動 (山口・美祢、防府地区)	11 月 23 日	日本赤十字社 山口県支部	11 名

全国の赤十字アマチュア無線奉仕団との通信訓練を 9 回行いました。

○青少年赤十字賛助奉仕団

会 議 名	実施時期	会 場	参加者数
全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会	7 月 14 日 ～15 日	本社	—
山口県青少年赤十字賛助奉仕団総会	9 月 27 日	日本赤十字社 山口県支部	8 名
中国・四国ブロック青少年赤十字賛助奉仕団連絡協議会・研修会	10 月 26 日 ～27 日	日本赤十字社 広島県支部	3 名

各市・町校長会などでの加盟促進、加盟校での人権講和を行いました。

○災害救護奉仕団

会 議 名	実施時期	会 場	参加者数
山口県赤十字防災奉仕団役員会・総会	4 月 23 日	日本赤十字社山口県支部	23 名
第 1 回山口県赤十字防災奉仕団フォローアップ研修会	7 月 24 日	日本赤十字社山口県支部	21 名
第 2 回山口県赤十字防災奉仕団フォローアップ研修会	9 月 24 日 10 月 2 日	日本赤十字社山口県支部	25 名

令和 4 年度台風 14 号で被災した住宅の復旧に向けて、浸水した家財の撤去などの活動を行いました。

防災講習における防災奉仕団員の指導協力回数

講習回数（団員協力／全講習数）	協力団員（実人数）
5 回／14 回	5 名

6 赤十字思想の普及

日本赤十字社では、赤十字の普遍的な使命である人道的任務を達成するため、多くの人びとの温かい思いを結集して赤十字運動を推進しています。

当支部では、県民の皆様に、赤十字に共感し、支援いただけるよう、「赤十字運動月間」キャンペーンや広報活動、企業等とのタイアップによる社会貢献活動の普及等により赤十字思想の普及に取り組みました。

(1)「赤十字運動月間」キャンペーン

5月1日の創立記念日、5月8日の「世界赤十字デー」にちなんで、毎年5月を『赤十字運動月間』として、全国各地で国民の皆さまに赤十字活動の報告や継続的な協力をお願いしています。

キャンペーン期間中は、地区区分を通じた広報誌の配布、レッド・ライトアップ・プロジェクトの実施、マスメディアを活用したPRなど赤十字活動の広報に努めました。

①「赤十字運動月間」における赤十字会員への加入の呼びかけ等

赤十字運動月間では、地区・分区や自治会長、奉仕団などにご協力いただき、赤十字会員募集のための資材等を地域の皆様へ配布し、赤十字会員への加入や活動資金への協力を呼びかけました。

【会員の推移（協力会員除く）】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
個人会員	797 人	1,747 人	1,719 人	1,892 人
法人会員	1,498 社	1,437 社	1,470 社	1,659 社
会員合計	2,295 人・社	3,184 人・社	3,189 人・社	3,551 人・社

②レッド・ライトアップ・プロジェクト

多くの人々に「人道の大切さ」について考え、理解を深めていただくきっかけとして、5月の赤十字運動月間に各地の公共・民間施設を赤色に灯す運動を平成28年度から全国一斉に実施しています。

7年目となる令和4年度も、県内施設に協力をいただき、世界赤十字デー（5月8日）を中心とした期間にライトアップを実施しました。

【ライトアップ実施施設】

協 力 先	場 所	期 間
山口県国際総合センター	海峡ゆめタワー	令和4年5月7日～9日

③マスメディアによるPR

赤十字運動月間を広く県民に周知し支援をお願いするため、テレビや新聞による広報を実施しました。

【テレビ】15秒CM

◆民放テレビ：山口放送、テレビ山口、山口朝日放送

◆ケーブルテレビ

- ・アイキャン（岩国・和木・周防大島）、周防ケーブルネット（柳井）、
- ・Kビジョン（下松・光・平生・上関）、シティーケーブル周南（周南）、
- ・山口ケーブルテレビ（山口・防府・美祢）、Jコム下関（下関）、
- ・萩ケーブル（萩）、ほっちゃTV（長門）

【新聞広告】

山口新聞、中国新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞

(2) 広報活動

①広報資材の作成・配布

県内全域へ赤十字事業・活動を報告するため、広報誌「赤十字やまぐち」を年2回発行しました。

また、「JRCとびっく」や「奉仕団だより」を発行し、関係者および協力先へ配布しました。

広 報 資 材 名	発行時期	発行部数	配布・設置先
赤十字やまぐち 2022 秋号	令和4年10月	370,000 部	各地区分区（原則各戸配布）、 講習受講者、赤十字サポーター他
赤十字やまぐち 2023 春号	令和5年3月	430,000 部	各地区分区（原則各戸配布）、 赤十字会員、講習受講者、赤十字 サポーター他
JRCトピック	令和5年3月	1,500 部	JRC加盟校他
奉仕団だより	令和5年3月	300 部	奉仕団員、各地区分区

②マスメディアを通じた情報発信

県内における赤十字活動を広く県民に知ってもらうため、プレスリリースを発出してテレビ局や新聞社からの取材を促進し、報道へと繋げました。

【報道件数】

発出件数 46 件

テレビ	新聞
16 件	30 件

③ホームページ・SNSによる情報発信

主に若年層の支持者を増やすために、引き続きホームページとフェイスブックで写真や動画を活用した目に見える活動報告を行いました。

(3) 企業・団体とのタイアップによる社会貢献活動の普及

①赤十字サポーター

平成 25 年度から実施している赤十字サポーター制度では、法人の社会貢献活動を促進するために、赤十字活動資金への継続的な支援と、企業・団体の事業内容に沿った赤十字事業への協力という要件を満たした企業・団体を、赤十字サポーターとして認定しています。令和 4 年度は、新たな認定が 2 法人あり、認定サポーターは 25 法人となりました。

【令和 4 年度赤十字サポーター認定法人】

社 名	所在地	認定日	支 援 協 力 内 容
トーフミート	宇部市	7 月 1 日	全国各地で実施する販売会での売上の一部を寄付
長州興業	山口市	3 月 1 日	自動販売機の売上の一部を寄付



株式会社トーフミート

②レノファ山口とのパートナーシップ協定に基づく取組の充実

平成 28 年 3 月に締結したパートナーシップ協定の内容に基づき、令和 4 年度は以下の相互協力を行いました。

【赤十字⇒レノファ】

実施項目	実施時期	備考（会場・内容等）
ホームゲーム救護所要員としてのボランティア救護員の派遣	2～10 月	山口維新百年記念公園陸上競技場 赤十字病院の看護師等（延べ 5 人）
救急法講習会の実施	2 月 5 日	レノファ山口 F C のボランティア団体 「TeamBONDS」への救急法講習実施
広報協力	適 時	保有施設でポスター等の掲示

【レノファ⇒赤十字】

実施項目	実施時期	備 考
献血イベントの実施	5 月 22 日 10 月 23 日	受付人数：67 人、400ml 献血 59 名 受付人数：82 人、400ml 献血 70 名
広報協力	適 時	保有施設でポスター等の掲示

(4) 表彰

日本赤十字社の事業・活動に多大なご協力をいただいた個人・法人に対し、感謝の気持ちをお伝えするための表彰品をお渡ししました。

表彰区分			表彰基準	個人 (人)	法人 (社／団体)	合計 (社／団体)
活動資金	社長感謝状		金色有功章受章後 (累計) 50 万円以上	4	6	10
	有功章	金色	(累計) 50 万円以上	6	5	11
		銀色	(累計) 20 万円以上	6	28	34
	支部長感謝状		(累計) 10 万円以上	21	55	76
	小 計			37	94	131
献血者	有功章	金色	献血回数 100 回以上	77		77
		銀色	献血回数 70 回以上	121		121
	小 計			198		198
合 計				235	94	329

○表彰式

社長感謝状及び金色有功章の受章者には、下記日程で支部長から賞状や有功章を贈呈しました。

【日本赤十字社山口県支部表彰式】

(日程) 令和 5 年 2 月 9 日 (木)

(会場) ホテルニュータナカ



(5) 国際人道法の普及

ウクライナ人道危機を契機として関心の高まっている国際人道法について、赤十字奉仕団、青少年赤十字の児童・生徒、指導者を対象とした研修会や様々な講演機会を活用して普及に努めました。

受講団体	実施時期	参加者（人）
下関南高等学校	4月6日 11月1日	323
下松市立末武中学校	11月8日	900
JRC 高等学校メンバー	12月9日	51
県内報道機関	2月14日	21
小野田ロータリークラブ	2月15日	30
合計	7回	1,325

7 赤十字活動資金の確保

日赤山口県支部の事業は、県民の皆様からお寄せいただく活動資金がよりどころです。近年、少子高齢化が加速し、地域社会が変容していく中、活動資金の確保は大変厳しい状況にあります。

このため、地区・分区や奉仕団等との連携による自治会・町内会を基盤とした募集を軸にしつつ、法人へのダイレクトメールや企業訪問等による法人会員の掘り起こしなど法人対策を強化し、活動資金の確保に努めました。

(1) 令和4年度の活動資金募集実績

少子高齢化や地域社会の変容などにより自治会等を基盤とした一般からの活動資金は減少しましたが、地道な広報活動を継続し、個人からの高額寄付の確保や法人DMの強化による応諾増などにより、4年連続で2億円を超え、目標を達成することができました。

○令和4年度の活動資金募集状況

区 分	令和4年度目標	令和4年度実績	令和3年度実績	前年対比
一 般 (遺贈等除く)	180,000 千円	192,404 千円 (189,404 千円)	245,590 千円 (187,778 千円)	78.3% (100.9%)
法 人	20,000 千円	27,793 千円	31,594 千円	88.0%
合 計 (遺贈等除く)	200,000 千円	220,197 千円 (217,197 千円)	277,184 千円 (219,372 千円)	79.4% (99.0%)

○活動資金収入実績の推移

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般		176,126	246,094 (186,094)	224,521 (192,521)	245,590 (192,779)	192,404 (180,404)
内 訳	自治会	165,584	163,229	159,689	155,821	152,101
	大口寄付	0	60,000	32,000	52,811	12,000
	その他	10,542	22,865	32,832	36,958	28,303
法人		19,478	23,154	16,726	31,594 (21,594)	27,793
内 訳	D M	12,741	13,033	10,279	14,801	19,908
	大口寄付	0	0	0	10,000	0
	その他	6,737	10,121	6,447	6,793	7,885
合計		195,604	269,248 (209,249)	241,247 (209,247)	277,184 (214,373)	220,197 (208,197)

※ 大口寄付は、1,000万円以上の寄付のみを集計

※ () 内は、大口寄付を除いた実績

(2) 一般対策

①地区分区との連携

令和4年度も赤十字運動月間での募集に先立って、地区分区で開催される協賛委員会等に出席したほか、地区分区担当職員や各自治会長様等の協力により、各地域で募集活動を推進しました。

なお、コロナ禍での募集となったため、感染防止を最優先に募集時期や方法等の変更により協力を呼びかけました。

【地区分区の協賛委員会議等】

行 事 名	開 催 時 期
日本赤十字社下関市地区代表協賛委員・分区長合同会議	令和4年4月13日
日本赤十字社防府市地区協賛委員会春季定例総会	令和4年4月26日
令和4年度日本赤十字社萩・阿武地区協力員集会	令和4年7月29日
令和4年度日本赤十字社宇部市地区協賛委員会	令和5年2月20日

②広報誌を活用した募集

平成30年度から広報誌「赤十字やまぐち」の秋号に振込用紙を付けて発行・配布しておりますが、2022秋号においても、多くの応諾をいただきました。

【応諾実績】

年 度	件 数	金 額
令和3年度	200件	4,554,911円
令和4年度	200件	3,921,602円

(3) 法人対策

①ダイレクトメールによる募集

例年、年3回（6月・9月・1月）のダイレクトメール発送により、過去に協力いただいた法人に対して活動資金の募集を行っています。令和4年度は、下表のと通りの応諾がありました。

また、1月の発送にあわせて、民間の調査会社から購入した法人リストを活用し、過去に依頼実績のない2,507社に対して、新たにDMを発送しました。

【募集状況】

	発送数	応諾数	応諾率	協力金額
6月発送分	4,313 件	970 件	22.5%	14,979,780 円
9月発送分	3,283 件	156 件	4.8%	2,466,900 円
1月発送分	494 件	56 件	11.3%	926,000 円
新規発送分	2,507 件	75 件	3.0%	1,535,000 円
合 計	10,597 件	1,257 件	11.9%	19,907,680 円

【発送対象】

発送月	発送対象
6 月	過去 3 年以内で 1 度でも納入のあった法人（1,542 法人） 昨年 1 月の新規発送時の未応諾法人（2,771 法人） 合計 4,313 法人
9 月	6 月発送分の未応諾法人（3,283 法人）
1 月	過去 3 年以内で 1 度でも納入のあった法人のうち 6 月、9 月発送分の未応諾法人（494 法人）
新規	本社が調査会社から購入したデータによる新規法人（2,507 法人）

②訪問による募集

表彰対象法人等 141 社に対して、表彰品、受領書を直接お届けして感謝の意をお伝えするとともに、赤十字事業について説明し、今後のさらなる協力をお願いしました。

（4）多様な活動資金納入方法の周知

日赤では、窓口払いや銀行振り込み以外にも、口座振替やクレジットカード払い、コンビニ払い、ネット銀行決済等様々な協力方法を整えています。令和 4 年度も、広報誌やホームページ等で紹介し、活動資金への協力促進を図りました。

（5）遺贈・相続による寄付の獲得

専門家に対して当支部が遺贈等の受付団体であることを周知するため、県内の税理士事務所および司法書士事務所へ広報誌を配布しました。

また、山口県紺綬有功会との共催で、司法書士による「遺贈・相続セミナー」を令和 4 年 7 月に開催しました。



【遺贈・相続セミナー】

（日程）令和 4 年 7 月 21 日（木）
（会場）KKR 山口あさくら

8 医療事業

新型コロナウイルス感染症対策に全力で取り組むとともに、医療機能の分化・連携や地域包括ケアシステムの構築など医療・介護の制度改革に適切に対応しつつ、県民ニーズに応じた医療提供体制の充実・強化に努めました。

(1) 山口赤十字病院

①病院機能の充実・強化

(ア) 入退院支援機能等の充実

患者と家族の生活相談や入院患者の円滑な入・退院の支援、地域の医療機関等との連携を強化するため、退院調整担当の看護師を病棟に常駐させるなど施策を実施しました。また、訪問看護ステーションをはじめ、市町や地域の保健医療福祉機関との連絡・調整を図りながら、患者が退院後も安心して在宅療養できるよう支援を行いました。

(イ) リハビリテーション提供体制の拡充・強化

身体の不活動等によって生じる廃用症候群を予防し、早期の ADL 向上と社会復帰を図るために、十分なリスク管理の下に、疾患の発症後早期から積極的なリハビリテーションを実施しました。

(ウ) 薬剤部業務の充実

医療技術の進展とともに薬物療法が高度化していることから、医療の質の向上及び医療安全の確保の観点から、病棟への薬剤師の配置を継続しました。

(エ) 高度医療機器の共同利用の推進

地域医療支援病院として、地域の医療機関における診療の充実を図るため、高度医療機器の共同利用を積極的に進めました。

共同利用実績	CT	429件	MRI	267件	RI	24件
--------	----	------	-----	------	----	-----

(オ) 食事指導業務の充実

入退院支援センターと入院患者に係る情報を共有することで、入院時から適切な食事の提供を行うとともに、入院患者の病態に対応した安全で治療効果の上がる特別食が提供できるよう取り組みを続けています。令和4年10月に北病棟において新調理室が稼働し、保冷配膳車を利用した食事提供が可能になるなど、質向上に取り組みました。

(カ) 特定行為が実施できる看護師の育成

厚生労働省指定研修機関として、特定行為（医師・歯科医師が予め作成した手順によりできる行為）が実施できる看護師の育成に取り組みました。

(キ) 病院機能評価の更新認定

病院機能評価は、国民が適切で質の高い医療を安心して受けることができるよう公益財団法人日本医療機能評価機構が行っているもので、急性期医療を中心に地域医療を支える基幹的病院として、一定水準を有する「認定」を受けています。継続して認定が受けられるよう、令和4年9月には中間報告を実施し、令和7年の更新に向けて業務改善を行っています。

②医療安全の推進

良質な医療サービスを提供する上での最重要課題である医療安全を確保するため、患者の権利などについてWEB研修を行いました。

また、チームとしての活動の充実を図るため、インシデントレポートを振り返り検討する場として患者安全カンファレンスや、倫理的事例に関する検討として臨床倫理コンサルテーションを毎月開催しました。

さらに、実効性のある医療安全対策を推進するため、山口県立総合医療センター、徳山中央病院と連携し、相互に医療安全対策に関する評価を行いました。阿知須共立病院については、当院の医療安全対策のノウハウを共有し、さらなるレベルの向上に協力しています。

③経営の安定化

(ア) 収益向上対策

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で外来・入院とも患者が減少する中、地域医療連携の強化による紹介患者の増加や効果的なベッドコントロール、手術室の効率的な運営などを通じて、新規入院患者の増加に取り組みました。

また、診療報酬改定を踏まえ、取得可能な施設基準については積極的に対応するとともに、本社の「費用をかけずに収益向上」対策を活用し加算等の算定率向上に努め、診療単価のアップを図りました。

外来診療単価	令和3年度	16,574 円	令和4年度	17,275 円
入院診療単価	令和3年度	62,613 円	令和4年度	64,641 円

北病棟稼働後は、病床数は低減するものの個室数は増床しており、時代のニーズに合わせた変更により単価向上と稼働率の向上を図りました。

病床数	4 2 7 床	→	3 7 7 床	個室数	6 3 室	→	7 8 室	個室稼働率	92%
-----	---------	---	---------	-----	-------	---	-------	-------	-----

(イ) 費用の適正化

材料費、委託費については、業者等との交渉や見積もり競合させるなどし、適正化に努めました。

北病棟の竣工、南病棟の解体準備に伴い、引越作業、医療機器の廃棄や産業廃棄物の処分など多くの事業がありましたが、複数社による競合や院内リソースの活用により費用の低減に努めました。

(ウ) 経営管理機能の強化

経営課題を抽出し、戦略的な業務運営を行うことができるよう、パフォーマンス指標により経営課題ごとに対策と数値目標を定め、PDCA サイクルの進行管理による評価・改善に努めました。

また、新棟建設も含めて大型投資が続き、その償還財源の確保が重要な課題であることから、長期資金計画を策定し、資金収支を計画的に管理しています。

④新型コロナウイルス感染症への対応

(ア) 病床の確保

県からの要請により、入院協力医療機関として、即時受け入れが可能となるよう病床 20 床を継続的に確保し、県指定の病床の他にも地域のニーズに応えるようコロナ対応病床を確保しました。

令和4年度入院患者数	実人数 4 2 6 人	延人数 3, 3 7 5 人
------------	-------------	----------------

(イ) ワクチン接種

山口市からの要請により、市民等へワクチン接種を行いました。

令和4年度ワクチン接種者数	延人数 1, 6 7 6 人
---------------	----------------

(ウ) 主な感染防止対策

- ・院内感染防止対策チームを中心に感染対策向上加算の取得を行いながら地域医療機関との連携を更に深め、医療圏全体での感染対策のレベルアップに努めました。
- ・北病棟の稼働に伴い、臨時診察室（発熱患者対応診察室）を別棟に 3 室設置し、救急処置室やこども急病センターに陰圧室を設置しました。
- ・北病棟の稼働後、病院への入り口をエントランス棟へ一本化し、発熱チェックの機器により入館者が気軽に体温を把握できる仕組みを継続しました。

(エ) WEB 面会

コロナ禍で面会制限がされている患者さんや、家族が遠隔地のため面会が行いにくい患者さんに対して、タブレット端末を活用して WEB 面会サービスを提供しました。

(オ) その他（再掲）

県からの要請により、県内で発生した医療機関におけるクラスターに対し、山口県クラスター対策チームとして職員を派遣するとともに、宿泊療養施設にも医師を派遣し、患者の健康管理を行いました。

⑤地域への貢献

(ア) 地域医療機関等との連携強化

地域の医療機関との患者の紹介・逆紹介を円滑に進めることができるよ

う、診療所等への訪問などにより要望の把握に努めるとともに、当院の地域連携パスの運用強化や退院支援・退院調整機能の強化を図りました。

また、当院ホームページ内に登録医療機関紹介サイトを継続整備し、地域医療機関等との連携体制について周知を図りました。

(イ) 地域の医療機関との連携による高度医療機器等の有効活用

地域医療支援病院として、地域の医療機関の効果的な診断を支援するため、当院の高度医療機器等の共同利用を進めました。

(ウ) 広報の充実、マーケティング活動の展開

新型コロナウイルス感染症の影響で、毎年実施している市民公開講座や体験学習などの地域とのふれあい活動は開催できませんでした。また、北病棟の竣工に伴う内覧会等を企画しましたが、開催には至りませんでした。

しかし、新病棟の機能や取り組みをより多くの関係者に知ってもらうため、ホームページの充実や地域連携紙、新病棟パンフレットを活用して地域医療機関との関係づくりを進めました。

(エ) 小児救急医療の拡充

当院では山口・萩地域の小児救急医療拠点病院として、入院が必要な小児をいつでも受け入れる体制を整えています。

令和2年からは防府市も参加し、地域医療機関の協力の下、山口・防府地域夜間こども急病センターとして、夜間の小児救急の受け入れを行っています。

新型コロナウイルス感染症拡大以降、患者数は減少しておりますが、小児救急医療の砦として、継続して運営を行いました。

⑥北病棟の竣工

病棟の耐震化や機能向上を図ることにより、当院が地域の基幹病院・災害拠点病院として、将来にわたって安定的に医療を提供できるよう、令和4年10月に北病棟を竣工しました。

感染症対策や設備の更新などを行うとともに、一般エリアと職員エリアを分けて、IDカードによる認証システムを導入しました。特に薬剤部や医局などは関連スタッフしか入室できないシステムとしており、個人情報管理や薬剤管理を厳重に行っております。

また、新たな医療機器として、県内初となるトモセラピーRadixact（ラディザクト）を導入しました。従来のリニアック装置に比べ、がんの病変部に線量を集中させ治療を行うため、頭頸部領域や前立腺治療で精度の高い放射線治療を提供することができます。

【今後のスケジュール】

令和5年8月頃まで	既存病棟の解体工事
10月頃	駐車場整備完了、全ての工事完了

【新病棟（北病棟）の概要】

- 構造：鉄筋コンクリート造及び鉄骨造
- 階数：地上5階建（鉄骨部分は地上8階建）
- 延床面積：約1万4千㎡
- 主な構成
 - 1階：外来、放射線、中央処置室、救急、こども急病
 - 2階：外来、内視鏡、透析センター、化学療法、薬剤部、検査部
 - 3階：リハビリ、中央材料、栄養課、医局
 - 4階：一般病床(40床)、HCU(8床)
 - 5階：一般病床(40床)

(2) 小野田赤十字病院

①医療提供体制の整備

(ア) 療養病棟の再編・整備

地域のニーズや院内の人員体制を踏まえて療養機能の集約を図ることとし、2病棟を40床から28床に減床した上で休止し、3病棟を40床から52床に増床するなど、療養病棟の再編・整備を行いました。

(イ) 施設における設備整備

老人保健施設と介護医療院において、入所・通所者に対する食事を最適な温度で提供するため、温冷配膳車を導入するとともに、業務効率の向上と飛沫による感染防止対策を図るため、汚物容器洗浄消毒装置を導入しました。

また、老人保健施設棟において、入浴者の安全と衛生管理の確保、介助者の業務負担軽減を図るため、老朽化した介護浴槽を更新しました。

②医療安全の推進

(ア) インシデント・アクシデントレポート報告制度の適切な運用

インシデント・アクシデントレポートの集計・分析結果を委員会や会議で職員に周知するとともに、アクシデントの評価や、軽微なインシデントレポートの提出の啓発活動を行うなど、医療安全の意識の向上に努めました。

(イ) 医療安全意識と安全文化の醸成

5S活動に取り組むとともに、医療安全マニュアルの見直しを行いました。

また、コロナ禍において、医療安全研修における出席率の向上を図るため、部署ごとのKYT（危険予知訓練）や、回数増・少人数による集合訓練、ビデオ研修などを実施しました。

また、介護医療院では火災時訓練を実施しました。看護部では BLS（一次救命措置）訓練、新入職者・再更新希望者への AED（自動体外式除細動器）訓練を行いました。さらには、医療安全の質の向上に向け、転倒転落予防対策チームを立ち上げました。

（ウ）院内感染防止

院内感染防止のため、感染報告を医療安全管理者が取りまとめ、感染対策委員会と連携しながら適切に対応しました。

③経営の安定化

人口減少・少子高齢化の進行や診療報酬の改定、新型コロナウイルス感染症の影響により、本院の経営を取り巻く状況は非常に厳しい状況にあることから、令和4年5月に日本赤十字社本社の医療事業推進本部直轄の「本部管理病院」に指定されたところです。

現在、本院の経営改善に向けて、患者数を増加させるための方策や病院機能に見合った設備投資など、収支改善に向けた検討に加え、今後の病棟運用の方向性についても検討を行うなど、本社と連携・協議しながら取り組んでいるところです。

④新型コロナウイルス感染症対策

（ア）病床の確保

県からの要請により、入院協力医療機関として、即時受け入れが可能となるよう病床を13床確保しました。

2022 年度入院患者数	実156人、延1,378人
--------------	---------------

（イ）ワクチンの接種

山陽小野田市からの要請により市民等へのワクチン接種を行いました。

2022 年度ワクチン接種者数	延3,472人
-----------------	---------

（ウ）主な院内感染防止対策

- ・ 正面玄関からの入館者に対する発熱者の監視・トリアージ
- ・ 感染症流行に合わせた面会の緩和や禁止
- ・ 職員に対する PPE（個人防護具）着用の徹底
- ・ 職員に対する手洗いチェッカーを使った研修や感染管理認定看護師による研修の実施
- ・ 地域の医療機関との連携や、定期的なカンファレンスへの参加

（エ）医療安全推進週間（11月20日～26日）の取組

外来患者向けに、「新型コロナウイルス」のリーフレットを作成・配布す

るとともに、各部署では、ポスターの掲示、部署内の安全対策の取組の確認をしました。

⑤地域への貢献

(ア) 地域の行事への参加

毎年度、地域の行事に対し、けがや傷病者救護のため看護師等の派遣をしており、令和4年度は、10名の看護師を派遣しました。

(イ) 地域住民へのPR

当院の情報をより分かりやすく、より早く伝えていくため、ホームページや広報誌による情報発信を行いました。

(3) 本年度の診療状況

区 分		山口赤十字病院	小野田赤十字病院
病 床 数		427床 (R4.10～ 377床)	120床 (R4.11～ 92床)
外来患者数	延 べ 数	166,413人	9,240人
	一日平均	687.7人	38.0人
入院患者数	延 べ 数	99,916人	27,575人
	一日平均	273.7人	75.5人

9 看護師等の養成

将来、山口赤十字病院で就業する意思がある看護師等の資格取得を目指す学生の就学支援を目的に、奨学金貸与制度を運用しています。

【令和4年度実績】

新規貸付決定者数	2名 (日本赤十字九州国際看護大学、山口県立萩看護専門学校)
新規貸付金額	1,200,000円(60万円×2名)
年度末貸付残高	11,125,000円

【制度概要】

(対象) 山口赤十字病院で就業する意思のある看護学生
(貸付) 金額：60万円／年(5万円／月×12)、期間：最長3年
(償還) 償還期間：貸与期間の2倍の期間以内

10 血液事業

「血液事業」とは、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤（輸血用血液製剤と血漿分画製剤）として、治療を必要とする患者さんのため、医療機関に供給する一連の事業のことをいいます。この血液製剤は、健康な方々から自発的に無償で血液を提供いただく「献血」により作られており、わが国の血液事業は、「献血」によって支えられています。

令和4年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響があったものの、山口県では51,415人から献血のご協力をいただき、県内の133医療機関に輸血用血液製剤56,893本を、不足することなくお届けすることができました。

(1) 献血状況

① 種別献血者数

(単位:人)

種別		事業 計画数	令和4年度 献血者数	令和3年度 献血者数	事業 計画比(%)	前年度比 (%)	前年度差
全 血 献 血	400mL	40,885	41,586	41,393	101.7	100.5	193
	200mL	298	388	523	130.2	74.2	▲135
成 分 献 血	血小板	2,752 (49,340)	3,425 (63,670)	3,831 (66,570)	124.5 (129.0)	89.4 (95.6)	▲406 (▲2,900)
	血 漿	7,633	6,016	6,098	78.8	98.7	▲82
献血者数合計		51,568	51,415	51,845	99.7	99.2	▲430

※「血小板成分献血」の（）内の数値は「血小板採血量」である。なお、事業計画数、献血者数及び前年度差の数値の単位は「単位」である。

- 1) 献血者数は、全血献血と成分献血を併せて51,415人で、事業計画比99.7%、前年度比99.2%、前年度より430人減少した。
- 2) 全血献血のうち、400mL献血が41,586人で、事業計画比101.7%、前年度比100.5%、前年度より193人増加した。
- 3) 成分献血のうち、血小板成分献血は、一人の献血者から2人分の血小板量である20単位（1人分は10単位）協力いただくことを推進している。献血者数、血小板採血量ともに事業計画比ではそれぞれ124.5%、129.0%であった。
- 4) 血漿成分献血は6,016人で事業計画比78.8%、前年度比98.7%、前年度より82人減少した。

②施設別献血者数

(ア) やまぐち献血ルーム「For you」(稼働日数：311 日) (単位：人)

種別		事業 計画数	令和4年度 献血者数	令和3年度 献血者数	事業 計画比(%)	前年度比 (%)	前年度差
全 血 献 血	400mL	4,680	4,797	4,967	102.5	96.6	▲170
	200mL	90	185	209	205.6	88.5	▲24
成 分 献 血	血小板	2,752 (49,340)	3,425 (63,670)	3,831 (66,570)	124.5 (129.0)	89.4 (95.6)	▲406 (▲2,900)
	血 漿	7,633	6,016	6,098	78.8	98.7	▲82
献血者数合計		15,155	14,423	15,105	95.2	95.5	▲682
1 日当り 献血者数		48.6	46.4	48.6			▲2.2

(イ) 移動採血車(稼働台数：延べ741 台) (単位：人)

種別		事業 計画数	令和4年度 献血者数	令和3年度 献血者数	事業 計画比(%)	前年度比 (%)	前年度差
全 血 献 血	400mL	36,205	36,789	36,426	101.6	101.0	363
	200mL	208	203	314	97.6	64.6	▲111
献血者数合計		36,413	36,992	36,740	101.6	100.7	252
1 稼働当り 献血者数		52.3	49.9	52.2			▲2.3

- 1) やまぐち献血ルームの献血者数は、14,423 人で事業計画比 95.2%、前年度比 95.5%、前年度より 682 人減少した。1 日当りの献血者数は、46.4 人であり、前年度に比べ 2.2 人減少した。
- 2) 移動採血車は、前年度より 37 台多い 741 台稼働し、献血者数は 36,992 人で事業計画比 101.6%、前年度比 100.7%、前年度より 252 人増加した。1 稼働当りの献血者数は、49.9 人で昨年度に比べ 2.3 人減少した。
- 3) 全血献血者数 41,974 人のうち、移動採血車での受入れが 36,992 人で 88%、やまぐち献血ルームでの受入れが 4,982 人で 12%を占めている。

③若年層献血者状況

(ア) 10代～30代献血者数

(単位：人)

年代別	計画数	令和4年度 献血者数	令和3年度 献血者数	計画比	前年度比	前年度差
16歳～19歳	2,255	1,975	1,989	87.6	99.3	▲14
20歳～29歳	5,956	6,078	5,985	102.0	101.6	93
30歳～39歳	7,830	7,184	7,349	91.7	97.8	▲165
計	16,041	15,237	15,323	95.0	99.4	▲86

(イ) 10代～30代献血者年代別構成比

(単位：%)

	令和4年度	令和3年度	前年度差
山口県(a)	29.6	29.6	0.0
全国平均(b)	33.3	33.9	▲0.6
a-b	▲3.7	▲4.3	-

- 1) 10代から30代の若年層の献血者は、15,237人で計画比95.0%、前年度比99.4%、前年度より86人減少した。
- 2) 10代が前年度比99.3%、20代が前年度比101.6%であった。
- 3) 30代は、前年度比97.8%であり2年連続で減少した。
- 4) 年代別構成比は、10代から30代が全体の29.6%で、全国平均33.3%に比べ3.7ポイント低い現状にあり、更なる若年層献血者の確保が必要である。

(2) 輸血用血液製剤の供給状況

(単位：本)

	令和4年度 供給本数	令和3年度 供給本数	前年度比 (%)	前年度差
全血製剤	0	0	-	0
赤血球製剤	40,420	40,844	99.0	▲424
血漿製剤	8,739	10,401	84.0	▲1,662
血小板製剤	7,734	7,838	98.7	▲104
計	56,893	59,083	96.3	▲2,190
医療機関数	133	133	-	0

- 1) 令和4年度の供給本数は、全ての血液製剤で前年度より減少した。(前年度比96.3%)
- 2) 赤血球製剤は前年度比99.0%、血漿製剤は前年度比84.0%。血小板製剤は前年度比98.7%であった。

(3) 収支状況（暫定値）

①事業収益

事業収益は、1,530,357 千円（予算比 100.5% 前年度比 97.0%）

山口県においては、すべての血液製剤が前年度より供給減となったため、輸血用血液製剤供給収益が対前年度比 99.2%となった。

（単位：千円）

		令和4年度 決算額	令和4年度 予算額	予算比 (%)	令和3年度 決算額	前年度比 (%)
中四国ブロック	輸血用血液製剤供給収益	13,057,958	13,071,469	99.9	13,166,103	99.2
	その他事業収益	7,473	8,801	84.9	7,127	104.9
	事業外収益	274,059	117,199	233.8	251,149	109.1
	特別利益	218	0	-	307	71.0
	計	13,339,708	13,197,469	101.1	13,424,686	99.4
山口センター	輸血用血液製剤供給収益	1,529,824	1,522,404	100.5	1,576,388	97.0
	その他事業収益	191	118	161.9	214	89.3
	事業外収益	342	0	-	663	51.6
	計	1,530,357	1,522,522	100.5	1,577,265	97.0

②事業費用

事業費用は、1,142,359 千円（予算比 105.7% 前年度比 106.8%）

予算比では、人件費 105.0%、材料費 102.5%、経費 110.8%であった。人件費は、移動採血車の増車に伴うものであり、経費は、燃料費、電気料金の高騰によるものである。

（単位：千円）

		令和4年度 決算額	令和4年度 予算額	予算比 (%)	令和3年度 決算額	前年度比 (%)
中四国ブロック	人件費	5,910,264	5,758,651	102.6	5,415,555	109.1
	材料費	3,430,862	3,605,000	95.2	3,449,509	99.5
	経費	3,258,762	3,250,349	100.3	3,047,179	106.9
	棚卸調整額	▲92,912	0	-	62,049	-
	事業外費用	6,358	7,309	87.0	11,223	56.7
	関連事業費用	6,886	9,535	72.2	6,406	107.5
	特別損失	7,019	21,053	33.3	43,306	16.2
	計	12,527,239	12,651,897	99.0	12,035,227	104.1
山口センター	人件費	650,137	618,918	105.0	591,567	109.9
	材料費	242,242	236,349	102.5	246,903	98.1
	経費	249,980	225,682	110.8	231,130	108.2
	事業外費用	0	0	-	0	-
	計	1,142,359	1,080,949	105.7	1,069,600	106.8

(4) 献血協力者を確保するための主な取り組み

①献血運動推進強調月間等におけるキャンペーン等の開催

- (ア) 7～8月。「愛の血液助け合い運動」キャンペーンの開催
県内13市で地域密着したキャンペーン：献血者数989人
- (イ) 1～2月。地区献血推進協議会(8地区)における「はたちの献血」キャンペーンの開催
県内7会場で若年層への啓発キャンペーン：献血者数511人
- (ウ) 12月。山口県学生献血推進協議会主催によるキャンペーンの開催
「全国学生クリスマス献血キャンペーン」：献血者数80人

②若年層献血者確保対策

- (ア) 高校及び大学、専門学校における献血の実施
 - ・高校献血：354人（前年度比79.7% 90人減）
実施校：13校で延べ14回実施（前年度に比べ1校延べ1回増加）
 - ・大学献血：1,599人（前年度比135.5% 419人増）
実施校：13校で延べ34回実施（前年度に比べ4校延べ12回増加）
- (イ) 「献血セミナー」「献血出前講座」の実施
 - ・献血セミナー：高校14校で実施
 - ・献血出前講座：小学校1校で実施
- (ウ) 「けんけつキッズスクール～小学生親子体験教室」（開催自粛）
- (エ) 献血読本「SEISHUN!献血」（14,000部）の作成
 - ・県内高校、高専、支援学校高等部1年生に全員配布
- (オ) SNSの運用による献血情報の発信

③WEB（ラブラット）会員登録の拡充（旧複数回献血者クラブ会員）

- ・WEB会員数：28,518人（R5.3月末）
- ・令和4年度新規登録者数：4,402人（目標数3,880人、達成率113.5%）

(5) 新型コロナウイルス感染拡大による献血への影響について

令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による移動採血車の配車受入れの中止や延期は少なくなった。

しかしながら、コロナ感染や同濃厚接触及びリモートワーク、リモート授業などの影響で献血対象者が減少し、各献血会場において過去実績を下回る先の読めない厳しい献血状況が続いた。

このような状況の中で、計画的に献血を得るために「予約による献血」を推奨し、安定的な献血者の確保に取り組んだ。

11 評議員会及び監査

(1) 評議員会

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し、3年ぶりに参集形式で開催し、いずれの議案も原案どおり承認されました。

①第1回評議員会〔令和4年6月10日（金） 於：ホテルニュータナカ〕

議案第一号 令和3年度日本赤十字社山口県支部事業報告
及び一般会計歳入歳出決算について

議案第二号 令和3年度医療施設事業報告
及び医療施設特別会計歳入歳出決算について

議案第三号 令和3年度血液センター事業報告について

議案第四号 日本赤十字社山口県支部 監査委員の選出について

報告事項 (1) 令和3年度の国内災害への日本赤十字社の対応
(2) 新型コロナウイルス感染症にかかる日本赤十字社の対応
(3) ウクライナ人道危機に対する日本赤十字社の対応

②第2回評議員会〔令和5年2月9日（木） 於：ホテルニュータナカ〕

議案第一号 令和5年度日本赤十字社山口県支部事業計画
及び一般会計歳入歳出予算について

議案第二号 令和5年度医療施設事業計画
及び医療施設特別会計歳入歳出予算について

議案第三号 令和5年度血液センター事業計画について

議案第四号 令和4年度一般会計歳入歳出補正予算について

議案第五号 令和4年度医療施設特別会計歳入歳出補正予算について

報告事項 ウクライナ人道危機に対する日本赤十字社の対応

(2) 監査

①監査委員監査

監査委員による令和3年度の支部一般会計及び医療施設特別会計の歳入歳出決算監査については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し、令和4年5月25日（水）に、対面形式により監査を実施しました。

監査の結果、県民からの赤十字に対する期待に応えていること、歳入歳出決算報告書のすべての重要な点において、適正に表示しているものと認められました。

②外部監査（監査法人による監査）

令和４年度は、山口赤十字病院及び小野田赤十字病院に対して実地監査が行われました。山口県支部に対しては、期中の会計書類を精査する書面監査が行われました。

監査の結果、会計処理に関する重大な問題の指摘はありませんでした。

《実地監査日程》

対象施設	日 程
山口赤十字病院	令和４年１２月２１日（水）～２３日（金）
小野田赤十字病院	令和５年２月６日（月）～８日（水） 【棚卸立会】令和５年３月３１日（金）

資 料 編

日本赤十字社山口県支部役員

令和5年4月1日現在

役職名	氏名	備考
支部長	村岡 嗣政	山口県知事
副支部長	平屋 隆之	山口県副知事
副支部長	国井 益雄	山口県市長会会長
支部参与	松岡 正憲	山口県総務部長
支部参与	國吉 宏和	山口県健康福祉部長
支部参与	木村 香織	山口県副教育長
監査委員	池内 英之	
	堀川 順生	
本社理事	藤家 幸子	本社代議員
本社代議員	石田 和雄	
	嬉 静恵	
	徳田 文範	

日本赤十字社山口県支部評議員

氏名	選出区分
川久保 賢隆	支部長
中繁 尊範	支部長
内田 芳明	支部長
田中 マキ子	支部長
藤家 幸子	支部長
太田 英弘	下関市地区
松原 守	下関市地区
中野 リエ子	宇部市地区
徳田 文範	宇部市地区
岩城 精二	山口市地区
井上 美代子	山口市地区
小林 正史	萩・阿武地区(萩市)
石田 和雄	防府市地区
山村 美津江	防府市地区
白木 正博	下松市地区

氏名	選出区分
藤谷 允子	岩国市地区
堀江 泰	岩国市地区
梅本 貞則	光市地区
竹林 敏子	長門市地区
嬉 静恵	柳井市地区
山田 悦子	美祢市地区
久野 三砂子	周南市地区
佐久田 美智枝	周南市地区
岡本 志俊	山陽小野田市地区
藤本 淨孝	東部地区周防大島町分区
松村 武	東部地区和木町分区
中田 佳代子	東部地区上関町分区
中原 和枝	東部地区田布施町分区
山田 博子	東部地区平生町分区
花田 憲彦	萩・阿武地区(阿武町)

地区・分 担 当 窓 口 一 覧

令和5年4月1日現在

地 区 ・ 分 区	担 当 部 課	〒	住 所	電話番号	FAX番号
下 関 市	総務部 防災危機管理課	750-8521	下関市南部町 1-1	083-231-9333	083-231-9966
菊 川	地域政策課 総務防災係	750-0317	下関市菊川町大字下岡枝1480-1 下関市菊川総合支所	083-287-1112	083-287-2739
豊 田	地域政策課 総務防災係	750-0421	下関市豊田町大字殿敷 1918-1 下関市豊田総合支所	083-766-1051	083-766-2683
豊 浦	地域政策課 総務防災係	759-6301	下関市豊浦町大字川棚 6895-1 下関市豊浦総合支所	083-772-0612	083-774-3305
豊 北	地域政策課 総務防災係	759-5592	下関市豊北町大字滝部 3140-1 下関市豊北総合支所	083-782-0063	083-782-1717
宇 部 市	健康福祉部 地域福祉課 地域福祉係	755-8601	宇部市常盤町 1-7-1	0836-34-8325	0836-22-6026
山 口 市	健康福祉部 地域福祉課 地域福祉担当	753-8650	山口市亀山町 2-1	083-934-2790	083-934-5087
徳 地	総合サービス課 健康福祉担当	747-0292	山口市徳地堀 1744 山口市徳地総合支所	0835-52-1121	0835-52-0760
秋 穂	総合サービス課 健康福祉担当	754-1101	山口市秋穂東 6570 山口市秋穂総合支所	083-984-8023	083-984-8041
小 郡	総合サービス課 健康福祉担当	754-8511	山口市小郡下郷 609-1 山口市小郡総合支所	083-973-8131	083-974-4387
阿 知 須	総合サービス課 健康福祉担当	754-1292	山口市阿知須 2743 山口市阿知須総合支所	0836-65-4114	0836-65-5188
阿 東	総合サービス課 健康福祉担当	759-1512	山口市阿東徳佐中 3417-2 山口市阿東総合支所	083-956-0794	083-956-0680
萩 市	福祉部 福祉政策課 地域福祉係	758-8555	萩市大字江向 510	0838-25-3550	0838-25-3232
川 上	市民窓口部門	758-0141	萩市川上 4462-1 萩市川上総合事務所	0838-54-2121	0838-54-2430
田 万 川	市民窓口部門	759-3112	萩市大字下田万 1036 萩市田万川総合事務所	08387-2-0300	08387-2-0303
む つ み	市民窓口部門	758-0304	萩市大字吉部上 3191-1 萩市むつみ総合事務所	08388-6-0211	08388-6-0218
須 佐	市民窓口部門	759-3411	萩市大字須佐 4570-5 萩市須佐総合事務所	08387-6-2016	08387-6-3406
旭	市民窓口部門	754-0411	萩市大字明木 3174 萩市旭総合事務所	0838-55-0211	0838-55-0217
福 栄	市民窓口部門	758-0212	萩市大字福井下 3999-6 萩市福栄総合事務所	0838-52-0121	0838-52-0262
防 府 市	健康福祉部 社会福祉課 社会係	747-8501	防府市寿町 7-1	0835-25-2349	0835-25-2549
下 松 市	社会福祉協議会 総務係	744-0078	下松市西市 2-10-16	0833-41-2242	0833-41-2330
岩 国 市	福祉部 福祉政策課 政策推進班	740-8585	岩国市今津町 1-14-51	0827-29-5070	0827-21-3337
由 宇	市民福祉課 福祉班	740-1428	岩国市由宇町中央 1-1-10 岩国市由宇総合支所	0827-63-1113	0827-63-1160

玖	珂	福祉班	742-0392	岩国市政珂町4933-2 岩国市政珂支所	0827-82-2511	0827-82-6139
本	郷	市民福祉班	740-0602	岩国市本郷町本郷 2082-1 岩国市本郷支所	0827-75-2582	0827-75-2366
周	東	市民福祉課 福祉班	742-0492	岩国市周東町下久原 1208-1 岩国市周東総合支所	0827-84-1112	0827-84-7711
	錦	市民福祉課 福祉班	740-0724	岩国市錦町広瀬 12-8 岩国市錦総合支所	0827-72-2112	0827-72-2120
美	川	市民福祉班	740-0502	岩国市美川町四馬神 1057 岩国市美川支所	0827-76-0311	0827-76-0863
美	和	市民福祉課 福祉班	740-1231	岩国市美和町生見 12126 岩国市美和総合支所	0827-96-1113	0827-96-1712
光	市	福祉保健部 福祉総務課 福祉総務係	743-0011	光市光井 2-2-1 あいぽーく光	0833-74-3000	0833-74-3070
長	門	健康福祉部 地域福祉課 地域福祉班	759-4192	長門市東深川 1339-2	0837-23-1245	0837-22-3680
日	置	地域窓口班	759-4401	長門市日置上5914-3 長門市日置支所	0837-37-2111	0837-37-2567
三	隅	地域窓口班	759-3802	長門市三隅中1473 長門市三隅支所	0837-43-0221	0837-42-0555
油	谷	地域窓口班	759-4503	長門市油谷新別名 10803 油谷保健福祉センター	0837-33-3021	0837-33-3022
柳	井	健康福祉部 社会福祉課	742-8714	柳井市南町 1-10-2	0820-22-2111	0820-23-7566
美	祢	市民福祉部 福祉課 地域福祉班	759-2292	美祢市大嶺町東分 326-1	0837-52-5227	0837-52-1490
周	南	子ども・福祉部 地域福祉課	745-8655	周南市岐山通 1-1	0834-22-8465	0834-22-8396
新	南	市民福祉課	746-0025	周南市古市1-4-1 イオンタウン周南内 周南市新南陽総合支所	0834-61-4114	0834-61-4242
熊	毛	市民福祉課	745-0663	周南市熊毛中央町 1-1 周南市熊毛総合支所	0833-92-0012	0833-92-0189
鹿	野	市民福祉課	745-0302	周南市大字鹿野上 3277 周南市鹿野総合支所	0834-68-2332	0834-68-2104
山陽小野田	市	福祉部 社会福祉課 地域福祉係	756-8601	山陽小野田市日の出 1-1-1	0836-82-1174	0836-81-5695
東	部	柳井健康福祉センター 保健福祉・総務室	742-0031	柳井市南町 3-9-3 山口県柳井総合庁舎	0820-22-3777	0820-22-3895
周防大島	町	健康福祉部 福祉課	742-2806	周防大島町大字西安下庄 3920-21	0820-77-5505	0820-77-5111
和	木	社会福祉協議会	740-0061	和木町和木 2-15-22	0827-52-8644	0827-53-2822
上	関	保健福祉課 社会福祉係	742-1402	上関町大字長島 448	0820-62-0184	0820-62-1541
田	布	町民福祉課 福祉係	742-1592	田布施町大字下田布施 3440-1	0820-52-5810	0820-52-5967
平	生	町民福祉課 地域福祉班	742-1195	平生町大字平生町 210-1	0820-56-7113	0820-56-5603
阿	武	社会福祉協議会	759-3622	阿武町大字奈古 3081-5	08388-2-2615	08388-2-3615

救急法等講習実施状況

令和4年4月1日～令和5年3月31日

開催地 区分	救急法			水上安全法			雪上安全法		健康生活支援講習		幼児安全法		家庭 あんま術	回数合計	受講人数
	基礎	救急員 養成	短期	養成Ⅰ	養成Ⅱ	短期	養成Ⅰ	養成Ⅱ	支援員 養成	短期	支援員 養成	短期			
下 関 市	1	1	22	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	25	766
宇 部 市	1	1	43	0	0		0	0	0	0	0	3	0	48	1,402
山 口 市	6	4	64	0	0	1	0	0	3	0	0	5	0	83	1,878
萩 市	1	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	14	386
防 府 市	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	269
下 松 市	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	775
岩 国 市	1	1	48	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	51	1,360
光 市	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	14	433
長 門 市	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	102
柳 井 市	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	11	202
美 祢 市	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	241
周 南 市	2	1	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	1,307
山陽小野田市	1	1	24	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	27	989
周防大島町	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	178
和 木 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上 関 町	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	30
田 布 施 町	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	125
平 生 町	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	136
阿 武 町	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	56
回数合計	13	10	305	0	0	2	0	0	3	0	0	15	0	348	-
受講人数	238	113	9,927	0	0	60	0	0	35	0	0	262	0	-	10,635

赤十字奉仕団一覽表

◎地域奉仕団

令和5年3月末現在

番号	奉仕団名	団員数	委員長名	結成年月日
1	下関市赤十字奉仕団	491	草野 和子	昭和50年6月11日
2	下関市菊川町赤十字奉仕団	76	林 幸子	昭和57年5月1日
3	下関市豊北赤十字奉仕団	298	大森 麻里子	平成2年3月30日
4	宇部市赤十字奉仕団	288	中野 リエ子	平成21年5月15日
5	山口市赤十字奉仕団	270	松永 君子	昭和32年9月20日
6	山口市徳地赤十字奉仕団	123	蔵 昭子	昭和62年7月10日
7	山口市小郡赤十字奉仕団	90	井上 美代子	昭和62年4月1日
8	山口市阿東赤十字奉仕団	200	松浦 富子	平成6年5月1日
9	萩市赤十字奉仕団	138	山下 清子	昭和43年8月23日
10	萩市川上赤十字奉仕団	19	横山 恵子	平成9年9月1日
11	萩市江崎赤十字奉仕団	89	嶋田 恵子	平成9年10月20日
12	萩市小川赤十字奉仕団	57	田村 悦代	平成9年10月20日
13	萩市むつみ赤十字奉仕団	28	藤井 美枝	平成8年4月1日
14	萩市須佐赤十字奉仕団	98	田村 光子	平成7年4月4日
15	萩市旭赤十字奉仕団	145	藤家 幸子	昭和55年9月1日
16	萩市福栄赤十字奉仕団	15	藤原 博行	令和2年10月1日
17	防府市赤十字奉仕団	352	山村 美津江	昭和36年4月13日
18	下松市赤十字奉仕団	396	古田 尊子	昭和32年4月1日
19	岩国市赤十字奉仕団	150	藤谷 允子	昭和56年2月1日
20	岩国市由宇町赤十字奉仕団	15	升田 雅子	昭和53年8月3日
21	岩国市玖珂町赤十字奉仕団	110	永岡 公美子	平成7年4月1日
22	岩国市本郷町赤十字奉仕団	61	藤本 千壽恵	平成8年4月1日
23	岩国市周東町赤十字奉仕団	100	新谷 絹代	平成4年9月8日
24	岩国市美川町赤十字奉仕団	70	上村 康子	平成7年9月1日
25	岩国市美和町赤十字奉仕団	69	上尾 英子	平成9年1月31日

番号	奉仕団名	団員数	委員長名	結成年月日
26	長門市赤十字奉仕団	166	長井 貞美	昭和57年4月1日
27	長門市三隅赤十字奉仕団	25	竹林 敏子	平成9年2月17日
28	長門市日置赤十字奉仕団	39	前原 喜久子	平成7年11月20日
29	長門市油谷赤十字奉仕団	8	光村 久江	昭和56年4月1日
30	柳井市赤十字奉仕団	386	嬉 静恵	昭和29年10月1日
31	美祢市赤十字奉仕団	140	木島 和世	昭和48年9月1日
32	周南市徳山赤十字奉仕団	120	石田 睦子	昭和39年10月10日
33	周南市熊毛赤十字奉仕団	60	佐久田 美智枝	平成9年5月1日
34	周南市鹿野赤十字奉仕団	60	有國 美恵子	平成3年4月1日
35	山陽小野田市赤十字奉仕団	540	岡部 つや子	昭和35年4月1日
36	周防大島町赤十字奉仕団	67	中元 みどり	平成26年4月1日
37	和木町赤十字奉仕団	154	藤本 亮恵	平成7年9月1日
38	上関町赤十字奉仕団	300	中田 佳代子	昭和63年9月1日
39	田布施町赤十字奉仕団	547	中原 和枝	昭和63年9月1日
40	平生町赤十字奉仕団	754	山田 博子	令和3年9月1日
41	阿武町赤十字奉仕団	350	藤田 恒代	平成7年7月27日
	合計 41 団	7,464		

◎青年奉仕団

番号	奉仕団名	団員数	委員長名	結成年月日
1	宇部青年赤十字奉仕団	12	徳田 文範	昭和39年4月1日
2	山口大学学生赤十字奉仕団	33	野上 翔市	昭和47年6月22日
3	山口県立大学学生赤十字奉仕団	22	藤谷 桃花	平成29年2月15日
	合計 3 団	67		

◎特殊奉仕団

番号	奉仕団名	団員数	委員長名	結成年月日
1	山口県赤十字安全奉仕団	155	大立 浩嗣	昭和60年4月5日
2	山口県赤十字アマチュア無線奉仕団	90	上利 雅幸	平成2年3月25日
3	山口県青少年赤十字賛助奉仕団	42	有馬 重人	平成15年6月10日
4	岩国赤十字災害救護奉仕団	39	松井 謙治	平成15年7月22日
5	山口県赤十字防災奉仕団	50	藤本 浩志	平成18年4月22日
	合計 5 団	376		

◎個人ボランティア(山口、小野田赤十字病院)

番号	人数
1	42



山口県青少年赤十字加盟園・校一覧

令和5年3月31日現在

1. 保育園

連番	保育園名	
1	岩国市	清 華
2		ひ ろ せ
計	2園	

幼保	19園
小学校	96校
中学校	33校
高等学校	37校
計	186園・校

2. 幼稚園

連番	幼稚園名	
1	岩国市	岩 国 南
2	山口市	宮 野
3		吉 敷
4		平 川
5		山口みなみこども園
6		仁 保
7		小 鯖
8		大 内
9		山口県鴻城高等学校付属
10		阿 知 須

連番	幼稚園名	
11	山口市	野田学園
12		藤村学園旭
13		亀 山
14		明 星
15		山口中央
16	下関市	もみじ学園
17	萩市	萩
計	17園	

3. 小学校

連番	小学校名		連番	小学校名		連番	小学校名	
1	岩国市立	小 瀬	36	光市立	浅 江	71	防府市立	向 島
2		御 庄	37		光 井	72		中 関
3		藤 河	38		周 防	73		華 城
4		杭 名	39		塩 田	74		小 野
5		河 内	40		三 輪	75		右 田
6		通 津	41		岩 田	76	宇部市立	大 道
7		岩 国	42	周南市立	東 荷	77		黒 石
8		装 港	43		櫛 浜	78		二 俣 瀬
9		川 下	44		菊 川	79		厚 東
10		愛 宕	45		岐 山	80	山陽小野田市立	小 野
11		灘	46		須 磨	81		小 野 田
12		由 西	47		周 陽	82		本 山
13		そ お	48		桜 木	83	美祢市立	赤 崎
14		川 上	49		秋 月	84		厚 保
15		修 成	50		鼓 南	85		於 福
16		周 北	51	山口市立	富 田 東	86	下関市立	秋 吉
17		美 和 東	52		福 川	87		養 治
18		美 和 西	53		三 丘	88		名 陵
19	和木町立	和 木	54		大 河 内	89		関 西
20	柳井市立	日 積	55		大 殿	90		清 末
21		柳 井	56		湯 田	91		豊 浦
22		伊 陸	57		良 城	92		吉 見
23		柳 井 南	58		平 川	93		小 串
24		柳 東	59		嘉 川	94		宇 賀
25	平生町立	佐 賀	60		興 進	95	長門市立	吉 田
26	下松市立	下 松	61		佐 山	96		浅 田
27		久 保	62	防府市立	仁 保	計	96校	
28		公 集	63		小 郡			
29		豊 井	64		大 海			
30		花 岡	65		阿 知 須			
31		中 村	66		島 地			
32		東 陽	67		柚 野 木			
33		室 積	68		富 海			
34	光市立	島 田	69		勝 間			
35		上 島 田	70		新 田			

4. 中学校

連番	中学校名	
1	岩国市立	灘
2	和木町立	和 木
3	柳井市立	柳 井
4		大 畠
5	下松市立	末 武
6	周南市立	鹿 野
7		鼓 南
8	山口市立	大 殿
9		白 石
10		湯 田
11		鴻 南
12		平 川
13		小 郡
14		秋 穂
15		川 西
16	防府市立	富 海
17		国 府
18		小 野

連番	中学校名	
19	宇部市立	黒 石
20	山陽小野田市立	竜 王
21	美祢市立	厚 保
22		於 福
23		秋 芳
24	下関市立	安 岡
25		菊 川
26		豊 北
27	萩市立	越ヶ 浜
28		須 佐
29		旭
30	長門市立	仙 崎
31		三 隅
32		菱 海
33	阿武町立	阿 武
計		33校

5. 高等学校

連番	高等学校名
1	高 森
2	熊 毛 南
3	光
4	聖 光
5	華 陵
6	下松工業
7	徳 山
8	徳山高等学校鹿野分校
9	新 南 陽
10	徳山商工
11	南陽工業
12	防 府
13	防府高校佐波分校
14	防 府 西
15	防府商工
16	高川学園
17	山 口
18	山口高校徳佐分校
19	山口中央
20	西 京

連番	高等学校名
21	中村女子
22	山口県鴻城
23	萩
24	萩 商 工
25	宇部中央
26	宇 部 西
27	宇部商業
28	宇部工業
29	宇部フロンティア大学付属香川
30	小 野 田
31	豊 浦
32	長 府
33	下 関 西
34	下 関 南
35	下 関 北
36	下関工科
37	下関商業
計	37校

6. 総合支援学校

連番	総合支援学校名
1	山口南総合
計	1 校

日本赤十字社山口県支部現勢

・ 赤十字基本原則 人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性

(令和5年3月末現在)

・ 役 員

支部長	村 岡 嗣 政
副支部長	平 屋 隆 之
副支部長	国 井 益 雄
監査委員	池 内 英 之
監査委員	堀 川 順 生
本社理事	藤 家 幸 子
本社代議員	藤 家 幸 子
	石 田 和 雄
	嬉 静 惠
	徳 田 文 範

評 議 員 30人

・ 会 員

個 人 1, 892人
法 人 1, 659法人

・ 赤十字奉仕団

団 数 49団
団員数 7, 907人

・ 青少年赤十字

加盟校（園）数 19園167校
メンバー数 32, 530人

・ 救護・救援

常備救護班 8班
救護要員総数 163人
救急車 3台
通信指令車 1台
災害救援車 7台
無線基地局 3局
無線移動局 45局
NBC除染セット 1セット
テント（パイプ組立式） 8張
エアーテント 2張
救援用毛布 870枚
緊急セット 1, 116個
安眠セット 84個

・ 養 成

救急法指導員 170人
水上安全法指導員 26人
幼児安全法指導員 72人
健康生活支援講習指導員 41人

・ 国際活動資金援助

アジア・大洋州給水支援事業 90.2万円

・ 医 療

病 院 2施設
病床数 469床
患者延数
外来 175, 653人
(1日平均) 725.7人
入院 127, 491人
(1日平均) 349.2人

・ 老人保健施設

小野田赤十字老人保健施設
入所定員 40人
通所定員 30人
小野田赤十字介護医療院
入所定員 60人

・ 血 液

血液センター 1施設
出張所 2施設
移動採血車 4台
血液運搬車 18台
献血者数 51, 415人
成分献血 9, 441人
400ml献血 41, 586人
200ml献血 388人
供給数 血液製剤 56, 893本

・ 職 員（正職員）

支 部 10人
山口赤十字病院 647人
小野田赤十字病院 95人
老人保健施設 22人
介護医療院 27人
血液センター 57人
計 858人

・ 山口県日赤紺綬有功会

会員数 62人・社

令和4年度 活動資金募集進展状況表

令和4年4月1日～令和5年3月31日

地区名	一 般			法 人			合 計		
	目標額 千円	実績額 円	達成率 %	目標額 千円	実績額 円	達成率 %	目標額 千円	実績額 円	達成率 %
下関市	33,477	26,469,823	79.1	3,247	4,104,960	126.4	36,724	30,574,783	83.3
宇部市	21,070	19,962,143	94.7	1,962	2,793,560	142.4	23,032	22,755,703	98.8
山口市	26,005	26,027,156	100.1	2,437	4,173,621	171.3	28,442	30,200,777	106.2
萩・阿武	5,967	5,043,960	84.5	544	658,000	121.0	6,511	5,701,960	87.6
防府市	14,245	13,592,990	95.4	1,469	1,362,000	92.7	15,714	14,954,990	95.2
下松市	7,245	7,283,304	100.5	783	951,500	121.5	8,028	8,234,804	102.6
岩国市	16,870	14,693,516	87.1	1,507	1,861,000	123.5	18,377	16,554,516	90.1
光市	6,317	8,311,500	131.6	533	790,000	148.2	6,850	9,101,500	132.9
長門市	4,078	5,306,300	130.1	414	361,000	87.2	4,492	5,667,300	126.2
柳井市	4,060	5,107,299	125.8	374	561,000	150.0	4,434	5,668,299	127.8
美祢市	2,748	3,787,150	137.8	281	362,000	128.8	3,029	4,149,150	137.0
周南市	18,638	13,202,336	70.8	3,033	2,277,858	75.1	21,671	15,480,194	71.4
山陽小野田市	7,613	6,733,050	88.4	864	997,430	115.4	8,477	7,730,480	91.2
地区計	168,333	155,520,527	92.4	17,448	21,253,929	121.8	185,781	176,774,456	95.2
周防大島町	2,030	3,139,167	154.6	155	180,000	116.1	2,185	3,319,167	151.9
和木町	700	673,500	96.2	92	530,870	577.0	792	1,204,370	152.1
上関町	350	401,000	114.6	38	45,000	118.4	388	446,000	114.9
田布施町	1,767	2,369,250	134.1	140	158,000	112.9	1,907	2,527,250	132.5
平生町	1,417	1,886,500	133.1	95	140,000	147.4	1,512	2,026,500	134.0
阿武町	403	665,000	165.0	32	70,000	218.8	435	735,000	169.0
分区計	6,667	9,134,417	137.0	552	1,123,870	203.6	7,219	10,258,287	142.1
支部	5,000	27,749,075	555.0	2,000	5,414,925	270.7	7,000	33,164,000	473.8
合 計	180,000	192,404,019	106.9	20,000	27,792,724	139.0	200,000	220,196,743	110.1

日本赤十字社山口県支部組織図



